

田辺市のひきこもり支援

(窓口開設 15 年目の報告)

平成 27 年4月～平成 28 年3月

和歌山県田辺市

目 次

| | |
|----------------------------|----------|
| I. 田辺市におけるひきこもり支援 | |
| 1. 田辺市ひきこもり支援について | 1 |
| 2. 田辺市ひきこもり相談窓口 紹介ビラ | 4 |
| II. 平成 27 年度 支援の実際 | |
| 1. 相談実績 | 5 |
| 2. 支援の報告 | |
| (1) 家族会(ほっこり会) | 11 |
| (2) 青年自助会実績 | |
| (3) 啓発活動・視察・問い合わせ | 12 |
| (4) ひきこもり支援啓発講演会 | 13 |
| (5) 田辺市ひきこもり検討委員会 議題／活動 | 19 |
| (6) 中学校での取組について | 20 |
| (7) ひきこもり検討委員会 講義 | 31 |
| III. 参考資料 | |
| 1. ひきこもり家族の会 ほっこり会 紹介ビラ | 39 |
| 2. NPO法人 ハートツリー 紹介ビラ | 40 |
| 3. NPO法人 かたつむりの会 紹介ビラ | 45 |
| 4. NPO法人 共生舎 紹介ビラ | 46 |
| 5. 田辺市ひきこもり検討委員会 設置要綱／委員構成 | 47 |

I. 田辺市におけるひきこもり支援

＝ネットワークを生かし、さらなる支援の充実を＝

田辺市におけるひきこもり支援は、平成 28 年 1 月で 15 年目を迎えました。

国では、子ども・若者育成支援推進法の施行を受け作成された「子ども・若者ビジョン」（平成 22 年 7 月）の見直しが行われ、新たに、平成 28 年 2 月「子ども・若者育成支援推進大綱」～全ての子ども・若者が健やかに成長し、自立・活躍できる社会を目指して～が定められました。

家庭・地域社会・情報通信環境・雇用を巡る課題が挙げられ、基本的な方針（5 つの重点課題）は、以下のとおりです。

1. 全ての子ども・若者の健やかな育成
2. 困難を有する子ども・若者やその家族への支援
3. 子ども・若者の成長のための社会環境の整備
4. 子ども・若者の成長を支える担い手の育成
5. 創造的な未来を切り拓く子ども・若者の応援

上記のうち、2. 困難を有する子ども・若者やその家族への支援の基本的な施策としては、

- (1) 子ども・若者の抱える課題の複合性・複雑性を踏まえた重層的な支援の充実
 - (2) 困難な状況ごとの取組
 - (3) 子ども・若者の被害防止・保護
- が挙げられています。

そのうち、(2)に関して、ニート等の若者の支援、ひきこもりの支援、不登校の子ども・若者の支援、高校中途退学者及び進路未決定卒業者の支援について述べられています。

ここ数年、田辺市ひきこもり相談窓口では、10 代の方からの相談（中学・高校での不登校、中退、進路未決定、就労など）が増えています。所属があっても不登校などにより、在宅の時間が長くなり、友人などとのつながりが減り、このままだとひきこもりになってしまうのではないかと、将来進学や就職など社会参加が出来ないのではないかとといった不安を抱える家族の方からの相談内容が多くなっています。

ひきこもりがちになった若者自身が、自ら支援機関に出向くことは難しいことも多いと思われれます。まずは、学校の先生方や保護者の方に、広くひきこもり支援を知っていただき、できるだけ早期につながっていただくことが重要です。そこから、ご本人へ接点を持つ機会をともに考え、さらに、今あるネットワークを生かし、所属や支援者が変わっても、見守りを切らさない体制づくりが求められます。一方で、社会参加や学習・就労への支援体制については、施策も予算も十分ではなく、沢山の課題を抱えています。

また、40 歳以上のひきこもりの方は、社会参加支援センターや若者サポートステーションの支援年齢対象外となっており、相談に至っても、その先の支援が十分ではありません。40 歳以上を対象とする居場所や中間就労の場についても検討が必要です。

今後も、国や県の施策を踏まえつつ、田辺市のさらなる支援体制の充実に向け、関係機関が互いに知恵を出し合い取り組んでいきたいと考えます。

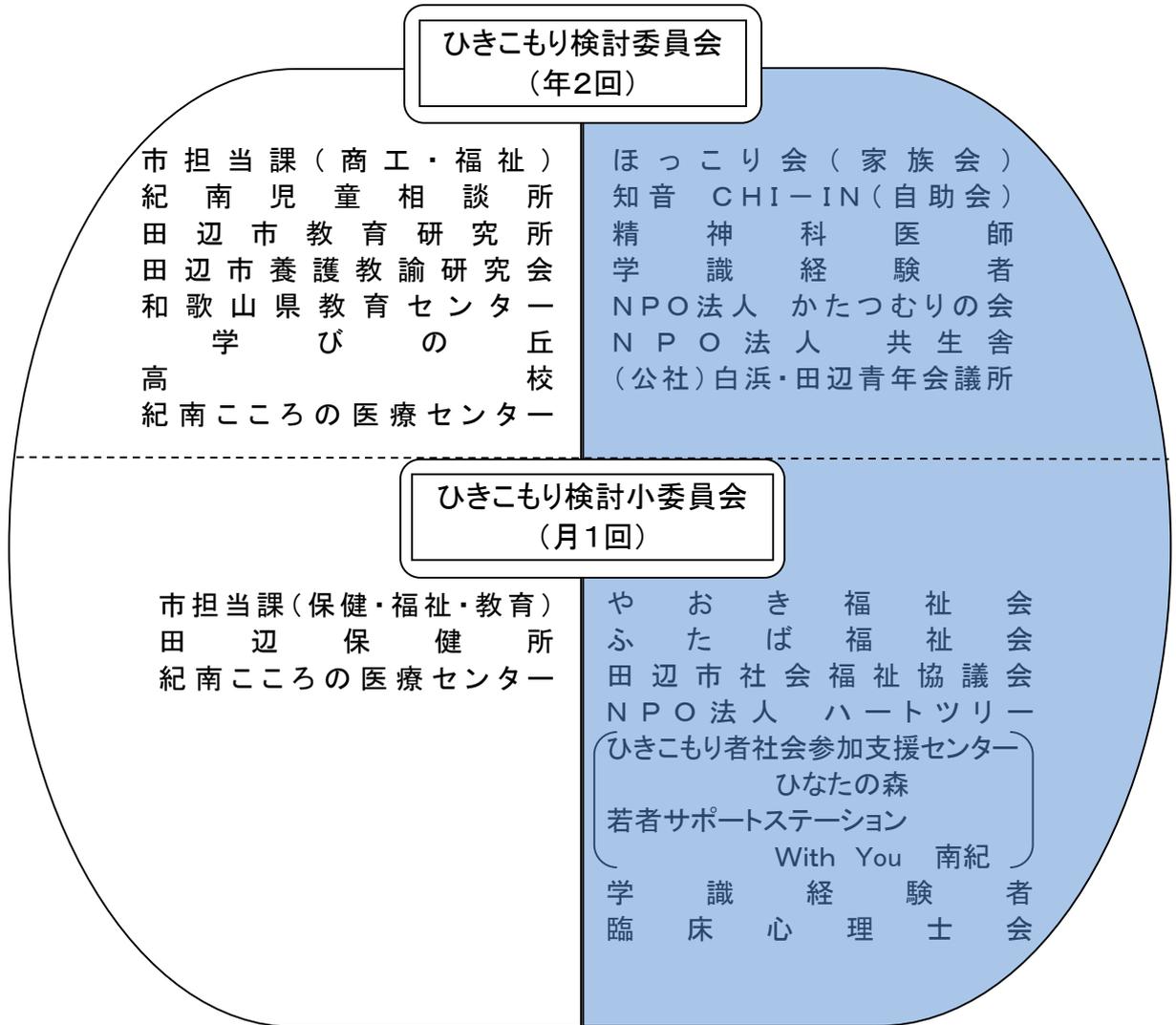
ひきこもり支援の経過

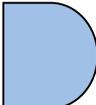
| | |
|--------------|--|
| 平成 9 年 6 月 | 議員一般質問 |
| 平成 13 年 1 月 | 田辺市ひきこもり検討委員会を設置 |
| 平成 13 年 3 月 | ひきこもり相談窓口の開設(保健師 1 名専任) |
| 平成 13 年 4 月 | 田辺市ひきこもり検討小委員会の設置 |
| 平成 14 年 5 月 | HAPPYが、ハートツリーハウス開所 社会的ひきこもり青年の居場所活動開始(国・県より補助金) |
| 平成 14 年 6 月 | 田辺市ひきこもり家族会の設置 |
| 平成 16 年 1 月 | 田辺市ひきこもり青年自助グループの育成(月2回) |
| 平成 16 年 3 月 | ひきこもり相談窓口担当者1名増員 2名(保健師・相談員)体制に |
| 平成 16 年 4 月 | 田辺市ひきこもり家族会が自主運営 |
| 平成 17 年 4 月 | ひきこもり青年自助会(知音CHI-IN)が開始(週 1 回) |
| | ハートツリーハウスが、「ひきこもり者社会参加支援センター」 運営事業補助金を受けて運営(県・市の補助金) |
| 平成 18 年 10 月 | ハートツリーハウスがNPO法人認可 ハートツリーに名称変更 |
| 平成 20 年 8 月 | NPO法人ハートツリーが南紀若者サポートステーション開設 |
| 平成 26 年 4 月 | 南紀若者サポートステーションが若者サポートステーション With You 南紀に名称変更 (県より若者総合相談窓口 With You 事業が委託されたため) |
| 平成 27 年 4 月 | ひきこもり者社会参加支援センター ハートツリーが、 ひなたの森に名称変更 |

※ ひきこもり青年自助会(知音CHI-IN)は平成 21 年度より休会中。
参加者がいる場合、再開。

田辺市ひきこもり支援ネットワーク

- ◆ 官民を超えたひきこもり支援対策の構築
- ◆ 事業報告・計画への意見
- ◆ 視察・講演会等への協力
- ◆ 対応が困難な事例の相談
- ◆ 委員の学習会



※  は公的機関  は民間機関

ひきこもり相談窓口

ご家族・ご本人さんだけで、悩んでいませんか？

- 不登校のまま卒業・・・
- 中退後自宅中心の生活をしている・・・
- 進学、あるいは、就職したけれど途中で社会参加をしていない・・・

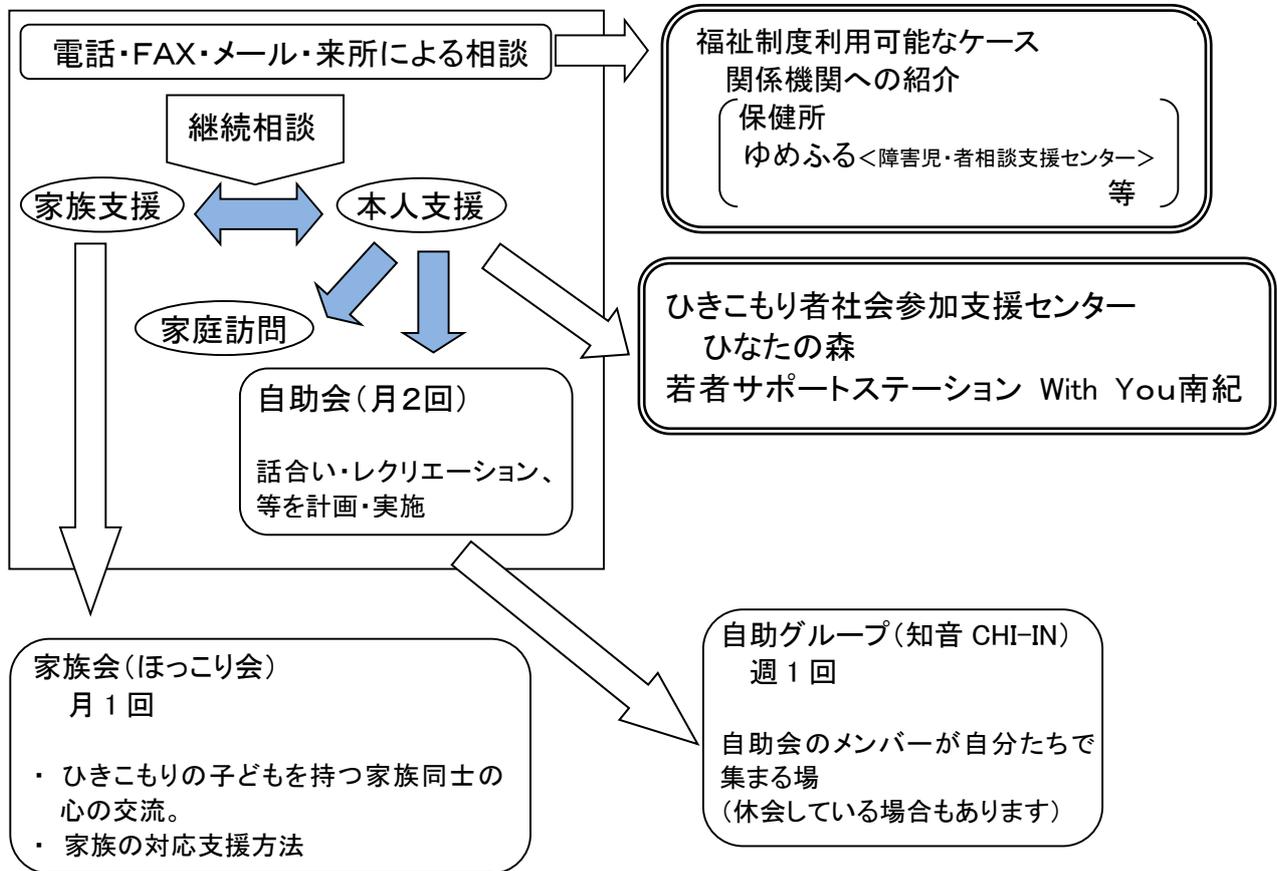


まずは、電話・メールをいただけませんか？

相談を定期的に続けていくうちに徐々に元気を取り戻していきます。
 自助会、家族会（ほっこり会）があります。
 会への参加は、相談窓口担当者がお会いした後、紹介させていただきます。



相談の流れ



問い合わせ先

田辺市健康増進課

TEL : 0739-26-4901(平日8:30~17:15)

TEL・Fax : 0739-26-4933(ひきこもり相談窓口専用)

E-Mail : shc@city.tanabe.lg.jp

Hp : <http://www.city.tanabe.lg.jp/kenkou/hikikomori/index.html>

※ 保健所にも「ひきこもり」相談窓口があります。

田辺保健所 TEL 0739-22-1200(代表) (平日9:00~17:45)



Ⅱ－1. 相談実績

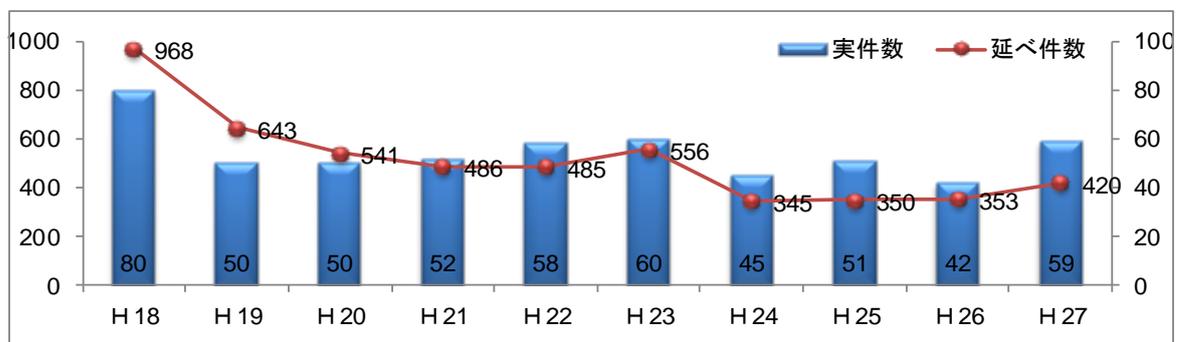
1. 相談実績 平成 27 年度

相談窓口開設以降、平成 28 年3月末までに 567 家族 589 件の相談がありました。
(内、平成 27 年度は 27 家族 28 件)

(1) 年度別相談件数

平成 18 年度から平成 27 年度の 10 年間の相談実件数、延べ件数の推移を示す。
平成 27 年度は、前年に比べ、実件数、延べ件数とも増加している。

| | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 実件数 | 80 | 50 | 50 | 52 | 58 | 60 | 45 | 51 | 42 | 59 |
| 延べ件数 | 968 | 643 | 541 | 486 | 485 | 556 | 345 | 350 | 353 | 420 |



(2) 平成 27 年4月～平成 28 年3月までの状況

① 月別相談延べ件数

相談件数では、来所の相談がもっとも多く、次いで電話相談である。

| | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 上半期合計 | |
|-----|------|------|------|-----|-----|-----|-------|-----|
| 電話 | 8 | 7 | 5 | 10 | 2 | 22 | 54 | |
| 来所 | 23 | 20 | 20 | 14 | 11 | 18 | 106 | |
| メール | 4 | 2 | 6 | 2 | 4 | 0 | 18 | |
| 訪問 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 8 | |
| 合計 | 37 | 30 | 33 | 27 | 18 | 41 | 186 | |
| | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 下半期合計 | 総合計 |
| 電話 | 23 | 18 | 14 | 18 | 18 | 16 | 107 | 161 |
| 来所 | 14 | 18 | 14 | 15 | 21 | 15 | 97 | 203 |
| メール | 5 | 2 | 2 | 7 | 1 | 3 | 20 | 38 |
| 訪問 | 3 | 1 | 3 | 2 | 1 | 0 | 10 | 18 |
| 合計 | 45 | 39 | 33 | 42 | 41 | 34 | 234 | 420 |

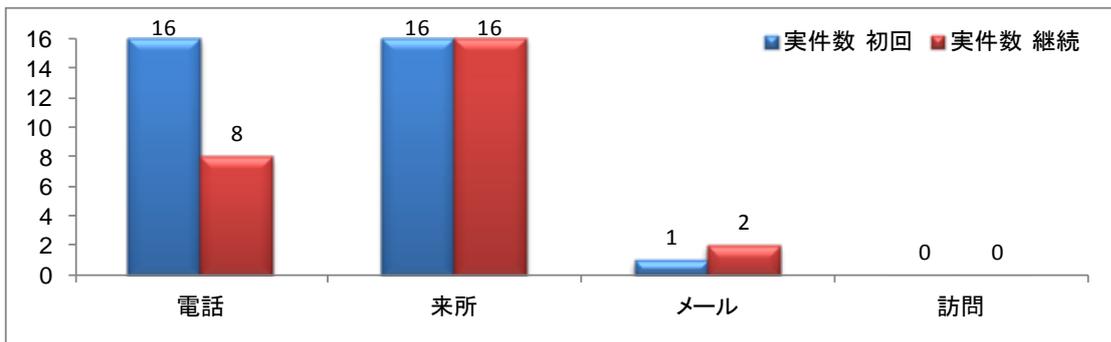
Ⅱ-1. 相談実績

② 相談実件数

相談実件数では、来所相談が一番多く、次いで電話相談である。
初回の実件数は、電話相談、来所相談ともに16件である。

| | 実件数 | | 合計 |
|-----|-----|----|----|
| | 初回 | 継続 | |
| 電話 | 16 | 8 | 24 |
| 来所 | 16 | 16 | 32 |
| メール | 1 | 2 | 3 |
| 訪問 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 33 | 26 | |
| | 59 | | |

※ 初回は、今年度、初めて来られた方。
(一度終了後、再度相談に来られた方も含む。)
※ 継続は、昨年度より引き続き相談に来られた方。



③ 相談者

初回は、関係者からの相談が最も多く、次いで母からの相談である。
延べは、本人が最も多く、次いで母からの相談である。

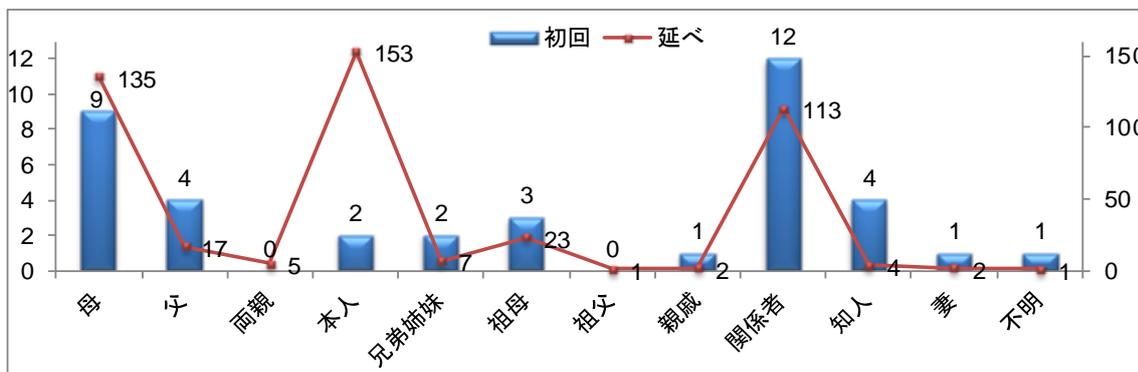
| | 母 | 父 | 両親 | 本人 | 兄弟姉妹 | 祖母 | 祖父 | 親戚 | 関係者 | 知人 | 妻 | 不明 | 合計 |
|----|-----|----|----|-----|------|----|----|----|-----|----|---|----|-----|
| 初回 | 9 | 4 | 0 | 2 | 2 | 3 | 0 | 1 | 12 | 4 | 1 | 1 | 39 |
| 延べ | 135 | 17 | 5 | 153 | 7 | 23 | 1 | 2 | 113 | 4 | 2 | 1 | 463 |

※ 初回は、4件が重複

内訳 妹・知人・関係者(2) 母・関係者(2)

※ 延べは、28件が重複

内訳 母・本人(1) 両親・本人・関係者(3) 母・本人・関係者(8) 本人・妻・関係者(1) 母・姉・関係者(1)
妹・知人・関係者(2) 両親・関係者(2) 母・関係者(10)

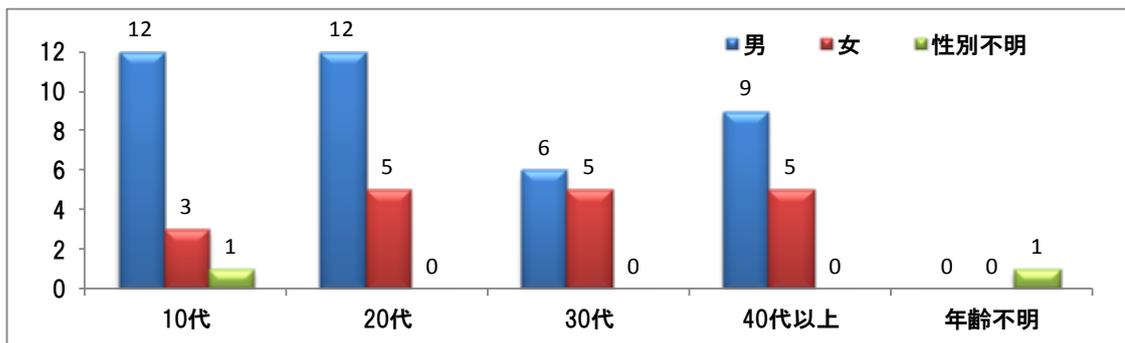


④ 年代別男女別件数(59件中)

年代別に見ると、20代が一番多く、次いで10代、40代以上、30代の順となっている。

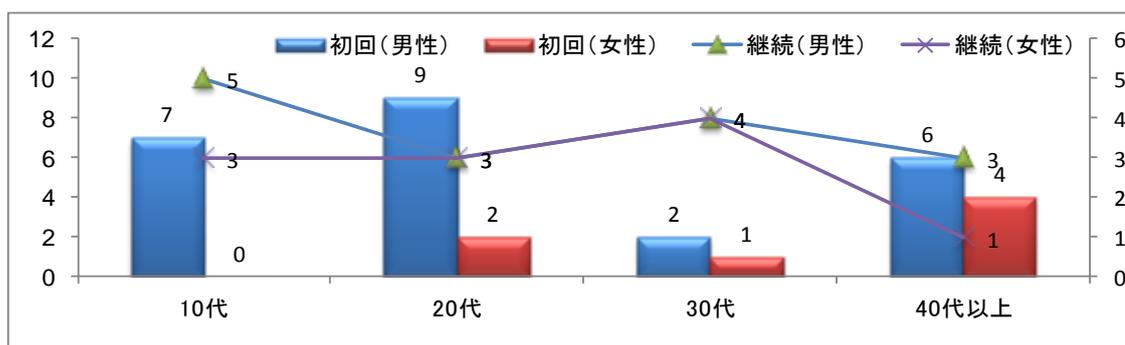
男女別に見ると、男性が66%と多くなっている。

| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代以上 | 年齢不明 | 合計 | % |
|------|-----|-----|-----|-------|------|----|----|
| 男 | 12 | 12 | 6 | 9 | 0 | 39 | 66 |
| 女 | 3 | 5 | 5 | 5 | 0 | 18 | 31 |
| 性別不明 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 合計 | 16 | 17 | 11 | 14 | 1 | 59 | |
| % | 27 | 28 | 19 | 24 | 2 | | |



⑤ 年代別男女別、初回及び継続件数(男性 39 件中・女性 18 件中)

| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代以上 | 合計 |
|--------|-----|-----|-----|-------|----|
| 初回(男性) | 7 | 9 | 2 | 6 | 24 |
| 初回(女性) | 0 | 2 | 1 | 4 | 7 |
| 継続(男性) | 5 | 3 | 4 | 3 | 15 |
| 継続(女性) | 3 | 3 | 4 | 1 | 11 |
| 合計 | 15 | 17 | 11 | 14 | 57 |



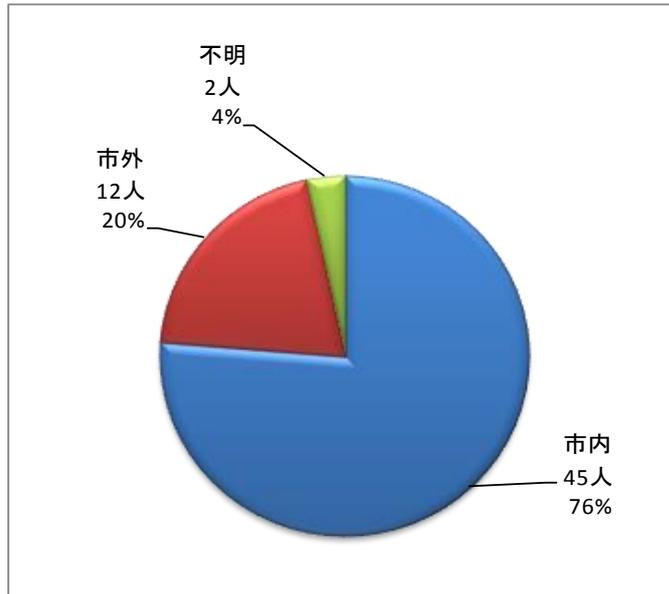
※ 1名は、10代で性別不明。1名は、性別、年齢不明。

Ⅱ-1. 相談実績

⑥ 居住別(59件中)

居住地別では、市内が76%である。

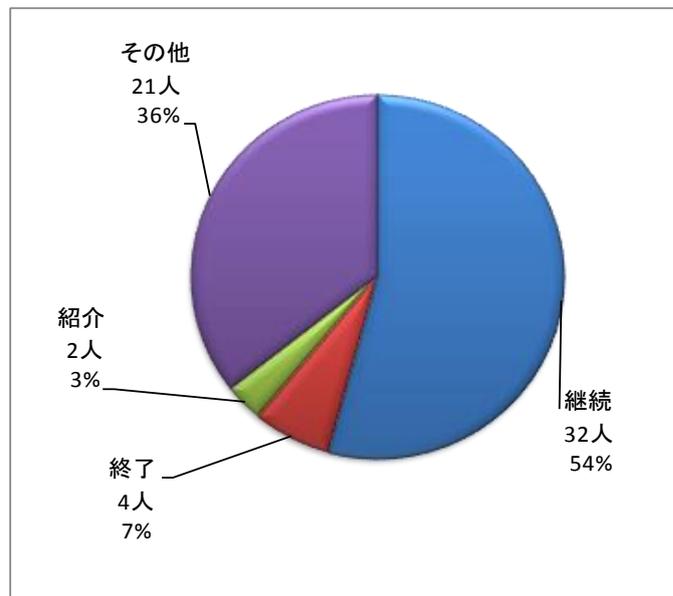
| | | |
|----|----|-----|
| 市内 | 45 | 76% |
| 市外 | 12 | 20% |
| 不明 | 2 | 4% |
| 合計 | 59 | |



⑦ 相談結果(59件中)

相談を継続する者が、54%、終了7%、紹介が3%、その他が36%である。

| | | |
|-----|----|-----|
| 継続 | 32 | 54% |
| 終了 | 4 | 7% |
| 紹介 | 2 | 3% |
| その他 | 21 | 36% |
| 合計 | 59 | |



終了

- ・就学(1)
- ・その他(3)

紹介

- ・生活相談センター(1)
- ・保健所(1)

その他

3カ月未満の継続

- ・家族からの相談(2)
- ・関係者からの相談(2)

1回のみで終了

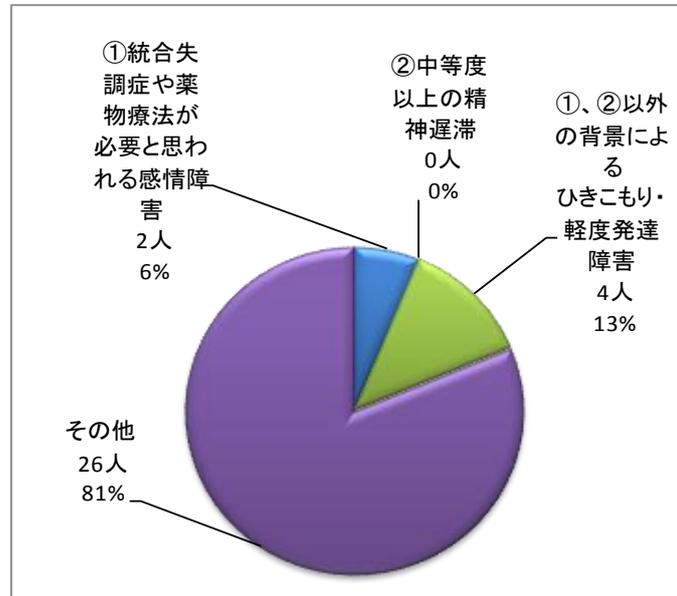
- ・本人からの相談(2)
- ・家族からの相談(9)
- ・家族・関係者からの相談(1)
- ・知人からの相談(1)
- ・関係者からの相談(3)
- ・相談者不明(1)

(3) 継続相談について

① 相談分類(32件中)

継続して相談に来られる方の中で、疾病や障害のないひきこもりの方が、約80%である。

| | |
|-------------------------|----|
| ①統合失調症や薬物療法が必要と思われる感情障害 | 2 |
| ②中等度以上の精神遅滞 | 0 |
| ①、②以外の背景によるひきこもり・軽度発達障害 | 4 |
| その他 | 26 |
| 合計 | 32 |

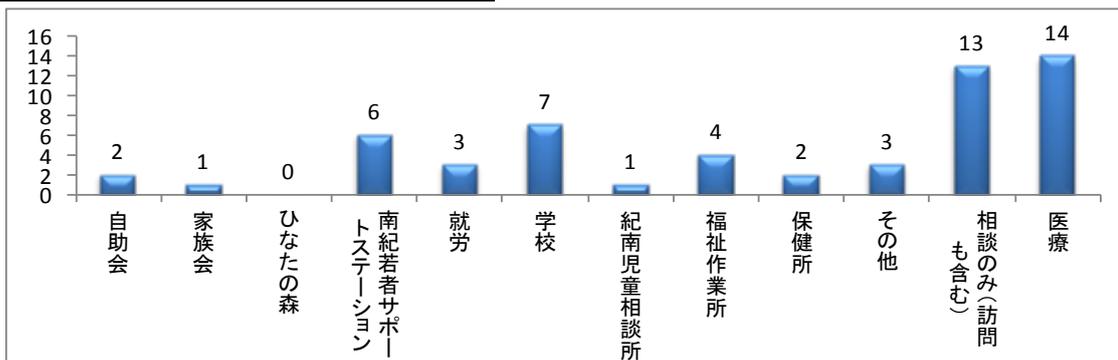


② 相談状況(重複あり)

継続状況は、相談のみが13件と一番多く、次いで学校が7件と多い。

| | |
|----------------|----|
| 自助会 | 2 |
| 家族会 | 1 |
| ひなたの森 | 0 |
| 南紀若者サポートステーション | 6 |
| 就労 | 3 |
| 学校 | 7 |
| 紀南児童相談所 | 1 |
| 福祉作業所 | 4 |
| 保健所 | 2 |
| その他 | 3 |
| 相談のみ(訪問も含む) | 13 |
| 医療 | 14 |

- ※ 相談のみ(訪問も含む)は、自助会や他の支援を利用していない方。
- ※ その他の内訳は、ゆめふる(2)福祉サービス利用(1)
- ※ 相談のみ(訪問も含む)は、医療と重複している場合もある。

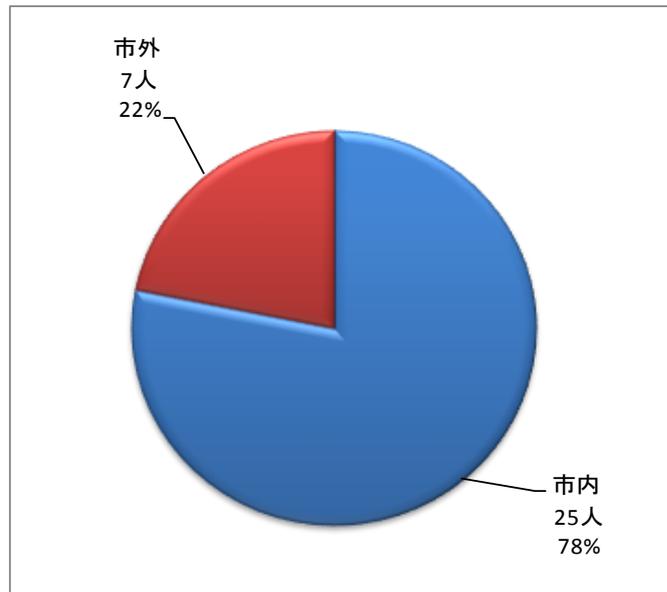


Ⅱ-1. 相談実績

③ 継続居住別(32 件中)

居住地別では、市内が約 80%である。

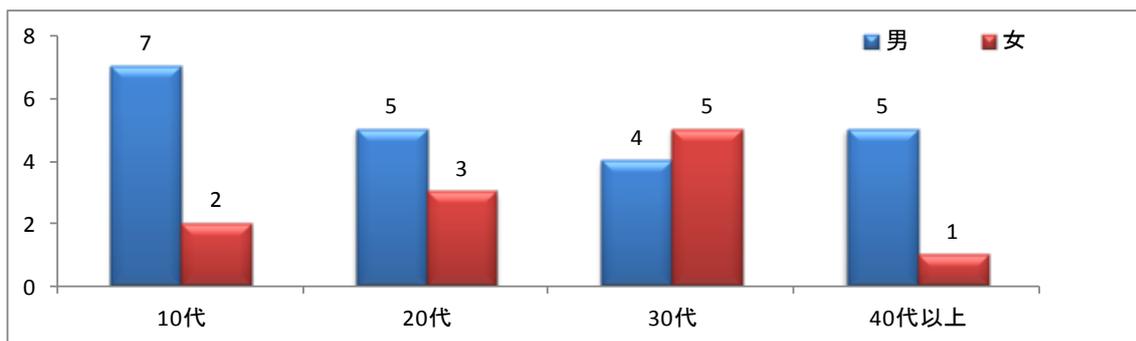
| | | |
|----|----|-----|
| 市内 | 25 | 78% |
| 市外 | 7 | 22% |
| 合計 | 32 | |



④ 継続年代別男女別件数(32 件中)

年代別に見ると、10代、30代が多く、20代、40代以上の順となっている。

| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代以上 | 合計 |
|----|-----|-----|-----|-------|----|
| 男 | 7 | 5 | 4 | 5 | 21 |
| 女 | 2 | 3 | 5 | 1 | 11 |
| 合計 | 9 | 8 | 9 | 6 | 32 |



Ⅱ-2. 支援の報告

(1) 家族会(原則月1回)

ほっこり会(紀南地方ひきこもり家族の会)実績

(平成16年4月より自主運営)

| 実施日 | 内容 | 出席者 | | | | 実数 | 参加家族数 | 対象家族数 |
|-----------|------|-----|-----|--------|-----|-----|-------|-------|
| | | 父 | 母 | その他関係者 | 窓口 | | | |
| H27.4.14 | 話し合い | 0 | 2 | 1 | 2 | 5 | 2 | 4 |
| H27.5.12 | 話し合い | 0 | 2 | 2 | 2 | 6 | 2 | |
| H27.6.9 | 話し合い | 0 | 2 | 1 | 2 | 5 | 2 | |
| H27.7.14 | 話し合い | 0 | 3 | 1 | 2 | 6 | 3 | |
| H27.9.8 | 話し合い | 0 | 2 | 1 | 2 | 5 | 2 | |
| H27.10.13 | 話し合い | 0 | 2 | 0 | 2 | 4 | 2 | |
| H27.11.10 | 話し合い | 0 | 2 | 1 | 2 | 5 | 2 | |
| H27.12.8 | 話し合い | 0 | 3 | 1 | 2 | 6 | 2 | |
| H28.1.12 | 話し合い | 0 | 2 | 1 | 2 | 5 | 2 | |
| H28.2.9 | 話し合い | 0 | 3 | 2 | 2 | 7 | 3 | |
| H28.3.8 | 話し合い | 0 | 2 | 1 | 1 | 4 | 2 | |
| | 平均 | 0 | 2.3 | 1.1 | 1.9 | 5.3 | 2 | |

(2) 青年自助会実績(原則月2回)

| 実施日 | 内容 | 出席者 | 窓口 | 実施日 | 内容 | 出席者 | 窓口 |
|----------|---------|-----|----|-----------|-------------|-----|----|
| H27.4.3 | 話し合い | 1 | 2 | H27.10.2 | 国体観戦(ボクシング) | 1 | 2 |
| H27.4.17 | 話し合い | 1 | 2 | H27.10.16 | 話し合い | 1 | 2 |
| H27.5.1 | 話し合い | 1 | 2 | H27.11.6 | 話し合い | 1 | 2 |
| H27.5.15 | 話し合い | 1 | 2 | H27.11.20 | 話し合い | 1 | 2 |
| H27.8.7 | 江川散策 | 1 | 2 | H27.12.4 | 年賀状作り | 1 | 2 |
| H27.8.21 | 手芸 | 1 | 2 | | | | |
| H27.9.4 | ジグソーパズル | 2 | 2 | | | | |
| H27.9.18 | 茶話会 | 1 | 2 | | | | |

Ⅱ-2. 支援の報告

(3) 啓発活動・視察・問い合わせ

○ 啓発活動

| 日 付 | 内 容 | 人 数 |
|--------------|----------------|-----|
| H. 27. 7. 21 | 三栖谷地区民生児童委員協議会 | 22名 |
| H. 27. 8. 25 | 中辺路地域学校保健委員会 | 13名 |
| H. 27. 8. 28 | 南紀高校教育対策研修会 | 48名 |

○ 視察

| | | |
|---------------|---------------|-----|
| H. 27. 7. 30 | 御坊・日高地域 親の会 | 5名 |
| H. 27. 11. 13 | 福井県越前市役所社会福祉課 | 2名 |
| H. 28. 1. 21 | 東京都三鷹市議会 | 10名 |

○ 問い合わせ

| |
|-------------|
| 千葉県 青少年センター |
| 新宮保健所 |

(4) ひきこもり支援啓発講演会

主 催： 田辺市ひきこもり検討委員会/田辺市/和歌山県子ども・若者支援地域協議会
 共 催： 若者サポートステーション With You 南紀
 後 援： 社会参加支援センターひなたの森/田辺市教育委員会
 田辺市社会福祉協議会/田辺保健所
 和歌山県精神医学ソーシャルワーカー協会/(公社)白浜・田辺青年会議所
 朝日新聞和歌山総局/毎日新聞和歌山支局/読売新聞和歌山支局
 産経新聞社/紀伊民報社/NHK 和歌山放送局/(株)テレビ和歌山和歌山本社
 (株)和歌山放送

日 時： 平成 28 年 1 月 30 日(土)
 演 題： 「生きにくさを抱えた人たちの生活設計」～親亡き後をどうするか～
 講 師： 働けない子どものお金を考える会 畠中 雅子 氏
 参加者： 146 名(ひきこもり検討委員・関係者・事務局含む)



【講演内容】

〈経緯〉

ファイナンシャルプランナーとして、個人の方向けのお金の全般的なアドバイスをする仕事をしている。元々は、ライターとして10年程働いていたので、主に、今も新聞や雑誌で、マネー情報を伝える仕事をしている。働けないお子さんをもつ親御さん向けにお話をするようになったのは、25年程前に、お子さんが働けないでいるという、あるお母さまにお会いしたことがきっかけ。その時は、役立つことが言えなかった。その後、セミナーで、親の生活を見直すこと、老後資金の設計を見直さなければという話をしていると、セミナーの後、一人二人残って質問を受けるようになった。どこに行っても働けない子がいるという相談を受けていた。ある時、精神科医の齊藤環先生が、どこかで見かけてくださって、ライフプランのシンポジウムのパネラーとして呼んでくださった。その後、全国からお声かけがあり、毎月のようにサバイバルプランについて話している。

〈サバイバルプランの検討〉

提案しているのは、サバイバルプラン。基本は、お子さんが働けない状況が一生続くことを前提につくる。最悪なプランから考える。

親の資産、貯金・不動産・ネットワークなどをどのように活用し、お子さんが、平均余命まで生きられるか模索する。アルバイトや就労支援で収入を得るといった好転的なプランは、後から考える。収入が得られないというのは、考えたくないことだと思うが、働けないことを前提にプランを考えていく。

障がい年金受給など公的年金は、収入として考える。収入として考えないのは、就労収入ということ。

生活保護は、否定も肯定もしない前提で話している。

最終的に生活保護に至る場合もあると思うが、至るまでの過程が重要。どういう手続きを、誰に申請してもらうか考えておくこと。生活保護は、住宅扶助、生活扶助、教育扶助、医療扶助の総合体。例えば、家を持っている方は、住宅扶助は受けずに、その他の扶助を受けるなど模索できる。システムを綿密に知るべき。どのように貯金を減らしていくかプランニングする。

親が持っている資金を出来る限り活用し、お子さんが食べていく事を検討・模索する。就労を諦めろというのではない。万が一就労しなくても生きていくことは出来る。その先に就労ができれば、更に生活は良くなると考えてもらいたい。

〈手持ち資金と生活費の確認〉

大前提として、親御さんの生活設計が先。働いていないお子さんをもつ親御さんは、「自分達はいいいから」と言うが、それは絶対に間違い。親の生活設計が成立しないと子に継承できない。「年金で食べているからいい、とにかく子供のことを教えて」と言われるが意味がない。土台のないところに家を建てるようなもの。先に、親の生活設計を考える。男性は90歳、女性は95歳まで生きるという前提で考える。手持ち資産で、どれくらいの赤字が出ているかを考える。年金の赤字は仕方がない部分もあるが、赤字額が多い場合は家計の見直しが必要。

また、おひとり様期の生活も考えておく。夫婦でも、必ずどちらかが、おひとり様になる。おひとり様になると赤字が増えるので考えておく。

家計簿をつけていても、年間の収支を正しく理解している人は少ない。貯金簿(預金額の現在額を付けて、数カ月ごとに差額を計算していくもの)をつけて、減るペースをつかむことが大事。だいたい三か月に一度書いて、推移をみる。貯金の減り具合がわかれば、今、資金があっても、譲る時には減っていることも予測できる。家計簿からするなら、月々の支出・年間特別支出・冠婚葬祭など把握する。それが面倒な方は、残高チェックから始めてみてほしい。高齢者施設への住み替え、要介護になった時の予備資金を見積もり、計算しておく。親側の生活がつかめないと、次のステップに進めないのできちんと考える。

〈病気や介護への備え〉

自分の将来について、病気や介護について不安に思っている人は多いが、具体的なプランニングをしている方は、めったにいない。具体的なプランニングとは、自分が持っている資金(もらっている年金額)で住み替えができるかを考えているかということ。自分で、リーズナブルで最後まで見てもらえるところを探しておくことは、サバイバルプランを壊さない一つのポイント。準備がないまま突然倒れると、計画が根底から崩れることもある。

介護が必要になったら、入院になったら、介護に備える貯蓄など、考えておく。入院したり、手術を受ける際は、保証人のサインが必要だが、お子さんが書きに行けないこともある。近くの病院のケースワーカーに事前に相談をしておくことも大切。

貯金簿は、誰でも見れる場所に常々置いてはおけないので、そういう資産の記録と、倒れた時にすぐに見てもらいたいことを書いた「イザというときに備える覚書」の二冊を別々に用意しておく。

〈親の「終の棲家」を考える〉

働いている、働いていないに関わらず、老後資金設計では、一番大事。

自分のもらっている年金で、住み替えができるか考えている人は少ない。家事ができないお子さんがいると、住み替えは、イメージ出来ないかもしれないが、出来るかどうかは別にして、考えなければならない。その場合、遠隔地か近くでなければいけないのかなど、いくつかの段階に分けて、住み替えは可能かどうか考えておく。

自宅介護は安い、施設介護は高いと考えている人が多い。介護の担い手が家族にいる場合は安いことも多いが、そうでなければ安いとは限らない。どちらがいいか決め付けず、両方必ず比較検討を。施設入所も入る所により様々。場合によっては、自宅介護より安くなる場合もある。介護の状態でも変わってくるので、どちらがいいかは分からない。持っているお金で、入れる所を考えておく。それを考えておかないと、サバイバルプランが成立しない。

一歳でも若いうちに、色々なことを調べる。親が倒れる前に、入れそうな所をさがすなど、道筋をつくっておくと、お金もある程度残せて、サバイバルプランが成り立っていく。

〈保険を活用した資産継承〉

保険は、とても重要な役割。

働いていない子に決めた金額を残したい場合や、働いていない子が住んでいるため他の兄弟(働いている子)に家を渡しにくい場合もある。家を相続できない子には、不公平になること

もある。

相続対策として、終身タイプの保険を利用する。保険には、遺留分がない。本来もらえる金額の半分は、遺留分として渡すことになっている。遺留分があるので、この子に残すと書いたものを残しても、全てこの子にはいかない。家を渡せない子に、今あるお金から保険に入り、受取人をその子にして、これしか残せないと伝えて置く。そうして、先々もめるのを防ぐ。加入する時は、解約のリスクがある商品もあるので、解約しなくても済む金額で入る。

生命保険信託では、保険金 3,000 万円以上で契約できる。受け取った保険金で信託契約を結び、毎月(年)お金がおりにような仕組みだ。残したお金があっても、お子さんが、管理できず早く使い切ってしまう、お金が減るのが怖くて使えないなども考えられるが、生命保険信託で、例えば、年に 100 万おりとわかれば、計画的に使っていける。加入金額が高いので、入る人は限られると思うが、サバイバルプランが立ち、目途が立ったというケースがある。

〈生命保険の活用事例①②親〉

介護に備えられ、介護が必要となれば親自身が使い、介護が必要でなければ、お子さんに遺すことができる介護保険もある。

中には、加入後7、8年経つと途中解約しても損をしない、元本保証のある商品もある。

一つひとつ準備していくこと。介護にも備えつつ、相続やお葬式費用として使うことも出来る。

〈生命保険の活用事例③④子〉

クリニック受診やカウンセリング受けることがあると思うが、受診した時点で保険に入れなくなるのが一般的である。こころの病気は、保険に加入するための審査の際、かなり厳しくみられてしまうからである。

日本で唯一、統合失調症の方でも入れる保険。統合失調症での入院はだめだが、それ以外の病気の入院なら保険金が出る保険を扱っている会社(少額短期保険会社)もある。

日本で唯一、発達障害の方専用の保険がある。入院した時に保険金が受け取れるだけでなく、例えば、外出先のお店で、パニックになって物を壊した時には賠償責任保険から保険金が受け取れる。

〈サバイバルプランの留意点〉

親が亡くなった時点で、残りそうな財産額を見積もる。本当に働いていないお子さんが、家を相続できるのか。他のお子さんが、相続できないことを理解しているか、家を渡せないお子さんに、意思を確認しておく。

電気・ガス・水道・電話代のライフラインの名義、親が突然倒れて手続きできないことを避ける。親が倒れる前に、お子さんの名義に替えておく。手続きがわからず、電気・ガス・水道が止まり、在宅ホームレスになることを防ぐ。

国民年金の滞納、未納を防ぐ。かけていないと障がい年金を受給する資格を失う。原則、全加入期間の三分の二は加入している必要があるが、過去 1 年間、保険料を支払うと可能性がある。放置はだめ。制度には、必ず入る。障がい年金のことは、専門家の方に、申請の仕方などの話を聞きに行くことが大事。

〈兄弟姉妹との連携は〉

お子さんが、働けない事は、親には責任がない。誰にでも起こりうる。特に、親御さんをお願いしている事は、兄弟に、手続きをしてくれるか、不公平な相続を受け入れてくれるか、確認を。

「あなたには悪いことをした。だが、自分たち亡き後は、〇〇のことを頼みたい」と言っておいてほしい。「お金は、親が準備しておく。手続きだけやってほしい。今までも我慢していると思うが」と頼む。それは、亡くなった後、どれだけやってももらえるかに結びつく。真摯に向かい合い、

伝えてほしい。中には、兄弟が、「とてもそんなことは出来ない」と返事する場合もある。けれど、それは、今、分かっていた方がいい。親が亡くなった後、お子さんに任せると、働いていない子は弱い、働いている子に太刀打ちできない。うまくいかないケースもあると思うが、勇気をもって伝えてほしい。

後見人をつけるとなると、二、三十年で、1,000 万円以上必要となる。そういった手続きにお金を使うなら、お子さんに残してあげられればと思う。また、市民後見人をさがすのも一つの方法。

先程紹介した、貯金簿を作ると、どこにいくらあるかがわかる。作らない場合は、口座リストを作成してほしい。余力があって、後見人などに頼む場合は、親が健在なうちに会わせて、契約の中身を決めておく。

〈お子さんひとり期の生活費〉〈お子さんの生活周りの手続き〉

家事の面倒は誰がみるか。親が、ご飯を作っていることが多いが、昼か夜どちらか作るのを我慢し、お子さん自身が用意出来るようにしていく。お子さんが自分で米5合を炊き、ラップに包み冷凍する。ご飯があれば、おかずは缶詰などでも食べていける。サバイバルプランでは、衣食住の面倒をみることは、悪影響。子が出来る家事を増やしていく工夫を。そんなことはできないと思うだろうが、親にいきなり何もしてもらえなくなるより、どちらが子どもの未来のためにいいか。こどもが出来る事を増やすことが大事。

部屋から出てきて食べる子なら、食べる工夫をしておく。食材購入は、ネットや生協など、外へ出なくても買えるルートを探す。今住んでいる場所で難しいなら、将来の住み替えも考える。一戸建てで、ごみ出しの時間が決まっており、出せないなら、24 時間いつでもごみが捨てられるマンションに住み替える考え方もある。

お弁当ばかり食べていると、生活コストを押し上げる。生ごみが残りやすくなり、悪臭がすれば、周囲からの苦情になるし、ねずみの発生などにもつながる。ごみが少なくなる工夫をすると、生活コストは低くなる。

外へ出られるお子さんなら、「ご飯を食べに行こう」と誘い、市役所の食堂に、ご飯を食べに行く。場に慣れることを繰り返し、抵抗がなくなれば、何度か目には、「今日は、年金の手続きをするから横で見ている」と役所の窓口に、一緒に連れて行く。親が連れて行くのが一番よい。

固定資産税や国保の未払いがないように。固定資産税の未納が長いと、家を出ていかなければならなくなることもある。

何が出来て、何が出来ないか、第三者の目で洗い出し、整理する。出来ない事が多いと生活費がかさむので、親が残すべきお金も多くなる。

一つひとつ出来る手続きをしていく。誰でも、今日が一番若い。嫌な事も沢山、お子さんが反対したり、機嫌が悪かったりなどもあると思う。けれど、怖がって何もしていないでいると、後悔が残る。どこまでやるかは、個々の勇気だと思う。ぜひ、今日の話覚えて帰ってほしい。



働けないお子さんの サバイバルプラン ～親亡き後を生きるために～

ファイナンシャルプランナー
島中 雅子

サバイバルプランの検討

- 親が持つ資産を巧く活用(配分)することで、お子さんが一生食べていける『ライフプラン＝サバイバルプラン』が成り立つかを模索する
- 「働けない状態が続くと仮定」して生活設計を考えるのが、サバイバルプランの前提
- お子さんの収入は「公的なもの(各種手当や障がい年金)」だけで考える
- 「生活保護の受給は最終手段」と捉え、親が持つ資産を活用した解決を目指す

手持ち資産と生活費の確認①

- 何歳まで生きるか？は誰にもわからないが、「最短でも90歳、女性は95歳」を寿命と考える
- 年金での「月の赤字」は、ある程度許容する
⇒但し、月に3万円を超える赤字は要注意！
- 『貯金簿』を利用して、貯蓄が減るペースをつかむことが重要
- 「おひとりさま期(＝年金が減った時期)」の生活設計も考えてみる

手持ち資産と生活費の確認②

- 手持ち資産で下記がまかなえるかの確認
⇒年間の赤字額×90歳or95歳までの年数
＝月々の赤字額×12か月分はいくら？(A)
＝年間の特別出費の合計額はいくら？(B)
(A) + (B) × 年数＝生活費として必要な金額
⇒高齢者施設への住み替えや、要介護状態になった場合の生活資金の上乗せ分を見積もる(C)
上記 + (C) = 必要となる老後資金
★(C)は300～500万円くらい取りたい

病気や介護への備え

- 介護が必要になったら？
認知症になったら？
－誰に手続きを依頼できる？
- 入院する際は、誰が保証人で、誰が身元引受人になれる？
- 介護に備える貯蓄はどのくらいある？
- 「資産の記録」と「イザというときに備える覚書」を2冊作成したい

親の「終の棲家」を考える

- 健康に自信がなくなったり、要介護状態になった場合は、早めの住み替えがおすすめ
⇒お子さんを残して住み替えは可能か？
- 子どもの近くに住むか、住居地を分ける覚悟が持てるのか、じっくり考えてみる
- 「自宅介護＝安い」「施設介護＝高い」と決めつけずに、元気なうちに両方を比較検討する
- 「介護型ケアハウス」や「介護付有料老人ホーム」などに住み替えられるか、検討する

保険を活用した資産継承

- 相続対策には、終身タイプの保険を活用
⇒「働けないお子さん」にも、「働いているお子さん」にも、遺したい金額を取り分けられる
⇒保険なら「遺留分」に縛られず、遺したい子どもに保険金を遺せる
- 「生命保険信託」なら、遺したい子どもに、遺したい金額を確実に遺せる
⇒死亡保険金3000万円以上の契約から、利用可能
⇒扱っているのは、P生命のみ

生命保険の活用事例①・親

- ★「共済」「一時払介護共済」
- 万が一の介護にも備えられて、介護を受けずに亡くなった場合には、支払った金額と同額の死亡共済金が受け取れる
- 【保障プラン例】
介護共済金500万円
死亡共済金は一時払い掛け金額
- 【一時払い掛け金例】
60歳 男性→366万8190円 女性→378万9760円
70歳 男性→417万3080円 女性→425万4105円

生命保険の活用事例②・親

★MY生命「パイオニアケアプラス」

- 要介護3程度以上の介護にも備えられて、介護を受けずに亡くなった場合でも、支払った金額以上の死亡保険金が受け取れる

【保障プラン例】

介護終身年金年額100万円 死亡保険金1000万円

【一時払い保険料例】

- 60歳 男性→923万1800円(10年経過すると100.5%)
- 女性→934万5000円(10年経過すると100.8%)

生命保険の活用実例③・子

★T少額短期保険

「ほっと入院サポート」(保険期間1年更新)

⇒うつ病や統合失調症など、多くの保険会社で引き受けを断られる病気でも、不担保にすることで加入OK

- 1泊2日以上入院で: 10万円
- 10泊11日から29泊30日までの入院: 1日1万円

| 年齢 | 男性(月額) | 女性(月額) |
|-----|--------|--------|
| 20歳 | 2999円 | 2935円 |
| 30歳 | 3433円 | 3613円 |
| 35歳 | 4110円 | 3946円 |
| 40歳 | 4654円 | 4218円 |

生命保険の活用実例④・子

★Z共済

少額短期健康総合保険「Zのあんしん保険」

⇒知的障がいや発達障がいの方が加入対象となっている総合保険。

⇒病気・ケガの入院保障のほか、個人賠償責任補償や権利擁護費用の補償などもある

- ▶保険期間: 1年
- ▶年齢・性別にかかわらず保険料は一定
- ▶保障内容から3プランから選択可能

保障内容と保険料

| | A-1プラン | B-1プラン | C-1プラン |
|-----------------|--|-------------------------------|-------------------------------|
| 万が一の場合 | 死亡保険金 10万円 | 30万円 | 150万円 |
| | 特定重度後遺障害保険金 10万円 | 30万円 | 150万円 |
| 病気やケガの保障 | 入院保険金 日額 8,000円 <small>(1泊1日)</small> | 9,000円 <small>(1泊1日)</small> | 10,000円 <small>(1泊1日)</small> |
| | 手術保険金 <small>(1回1手術)</small> | 30,000円 | 30,000円 |
| | 入院一時金 <small>(1回1入院)</small> | 10,000円 | 10,000円 |
| | 障害通院保険金 日額 1,000円 <small>(1回1日)</small> | 1,500円 <small>(1回1日)</small> | 2,000円 <small>(1回1日)</small> |
| 後遺後遺費用 | 法律相談費用 | 5万円 <small>(1回)</small> | 各プラン共通 |
| | 弁護士費用 | 100万円 <small>(1回)</small> | 各プラン共通 |
| | 検見費用 | 1万円 <small>(1回)</small> | 各プラン共通 |
| 賠償責任 | 個人賠償責任保険金 | 最高1,000万円 <small>(1回)</small> | 各プラン共通 |
| 年間保険料 | 17,000円 | 27,000円 | 37,000円 |
| 加入年齢 | 満3歳～満74歳 | 満5歳～満64歳 | 満5歳～満64歳 |

※てんかん発症のための入院は入院保険金日額の半額となり、検見費用は各プランと異なります。

サバイバルプランの留意点

- 親の資産を活用すると、お子さんは何歳くらいまで生活が成り立ちそうかを見積もる
- 「お子さんの寿命を考えた住まい」の確保について考える
 - ⇒家は確実に相続できる？
 - ⇒相続税対策はできている？
- 電気・ガス・水道・電話代などのライフラインは、お子さん名義への変更も検討する
- 国民年金保険料は払う？ 免除を受ける？
 - ⇒障がい等級1・2級は納付免除

兄弟姉妹との連携は

- 兄弟姉妹が、どこまでお金や手続きの援助ができるかを検討する
- 兄弟姉妹にも、家の財産状態をきちんと伝える
- 遺言書以外に「エンディングノート」を作成して、親の思いを書き記す
- 言葉でも「あなたには悪いことをした。だが、自分たち亡きあとは、〇〇のことを頼みたい」と伝える
- 兄弟姉妹が後見人になれない場合や一人っ子の場合の後見人を検討する
 - ⇒「成年後見人」に依頼するのは難しいのが現実

お子さんひとり期の生活費

- 住まいがあれば、ひと月10万円以内、賃貸の場合は家賃をプラスした金額を目安に
 - ⇒住居費の有無が、生活設計に大きな差を生む
- 生活(家事)全般の面倒は誰がみる？
- 食事はどうやって調達する？
 - ⇒宅配などを面で受け取れる？
- 固定資産税や国民健康保険料は、お子さんの口座に少しずつ入金して、未払いを防ぐ
 - ⇒贈与税の対象にならないよう、年間110万円まで

お子さんの生活周りの手続き

- 金融機関、保険会社などの連絡先リスト、口座番号リストを作成しておく
- 困った時にはどこに、どのように相談するべきなのか、ノートにまとめておく
 - ⇒「貯金簿」と「緊急時リスト」は別々のノートにする
- 後見人を頼むなら、親が健在のうちに後見人に引き合わせて、関係性を築いておく
- 自治体の窓口に出向いて(外出できる場合)、手続き場所や手続き方法を教えておく

(5) 田辺市ひきこもり検討委員会(平成 27 年度)議題

(出席者はひきこもり検討委員の人数)

| 第 1 回(H 27. 4. 25) 出席者 26 名 | 第 2 回(H 27. 10. 17) 出席者 20 名 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・委員改選 ・田辺市のひきこもり支援について 平成 26 年度事業報告 平成 27 年度事業計画 ・その他 関係機関の紹介および意見交換  | <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度上半期事業報告 ・平成 27 年度下半期事業計画 ・関係機関からの報告 ・講演 「ひきこもり経験があり、ハートツリーや窓口の支援を受けたことのある A 氏の話」  |

小委員会(平成 27 年度)議題(出席者はひきこもり検討小委員の人数)

| | |
|---|--|
| 第 1 回(H 27. 5. 14) 出席者 8 名 | 第 6 回(H 27. 11. 12) 出席者 12 名 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・講演会について ・小委員会での計画について ・取組の紹介(田辺市障害児・者 相談支援センターゆめふる) | <ul style="list-style-type: none"> ・講演会について ・中学校での取組について |
| 第 2 回(H 27. 6. 11) 出席者 11 名 | 第 7 回(H 27. 12. 10) 出席者 12 名 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「人生グラフwithコラージュ」に関する新論文の紹介と「中学校での取り組み」でのアンケートの取り方について ・ひきこもり支援の課題について | <ul style="list-style-type: none"> ・講演会について ・来年度講演会講師について |
| 第 3 回(H 27. 7. 9) 出席者 11 名 | 第 8 回(H 28. 1. 14) 出席者 7 名 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・講演会について ・第2回ひきこもり検討委員会(大委員会)の講師について | <ul style="list-style-type: none"> ・講演会について ・来年度講演会講師について ・現状と課題 |
| 第 4 回(H 27. 8. 6) 出席者 9 名 | 第 9 回(H 28. 2. 4) 出席者 9 名 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・講演会について ・中学校での取組について ・第2回ひきこもり検討委員会(大委員会)講師について | <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度講演会について ・平成 28 年度講演会講師について ・支援の報告 ・平成 27 年度 まとめの冊子について |
| 第 5 回(H 27. 9. 10) 出席者 9 名 | 第 10 回(H 28. 3. 10) 出席者 9 名 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・講演会について ・支援の報告 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度事業計画について ・平成 28 年度ひきこもり検討委員会 について ・平成 27 年度まとめの冊子について |

(6) 中学校での取組について

【経緯】

ひきこもと、そこから抜け出すのは容易ではなく、ひきこもり支援においてはその予防及び早期支援が重要課題となる。しかし、いざ、ひきこもり状態になった時、専門家に相談した経験のない方や相談機関についてあまり知識のない方が実際に相談機関へ足を運ぶハードルは高い。

そこで、ひきこもり状態になった場合、あるいは不適應状態になったとき、どのような支援を受けられるのかを中学校や高校などの在学中に知ってもらい、相談への心理的なハードルを下げてもらうことで、早期支援が可能になると考えられる。

相談機関を周知させる具体的取り組みとして、中学生や高校生など 10 代の生徒に対して PR することが将来のひきこもり予防に効果的であると考え、平成 26 年度にモデル的に市内の A 中学校にご協力をいただき実施した。

A 中学校での取り組みが参加生徒たちに良い効果をもたらしたことが示唆されたので、今年度さらに協力校を増やして実施することとなった。

【目的】

- ・相談機関の周知を図る。
- ・将来の自分はどのように生きていきたいかグループの中で考えることにより、楽しみながら自己理解と他者理解を深め、心理的成長の機会とする。

【方法】

過去・現在・未来の人生グラフを描き、人生に関連した写真、気に入った写真を雑誌から切り抜いてコラージュする「人生グラフ with コラージュ」(LGT+C) (紀南こころの医療センター／臨床心理学博士：東 知幸氏考案)というエクササイズを活用したワークショップ(体験学習)を行う。ワークショップのまとめの中で、将来ひきこもりや不適應状態になったときの対処として、相談機関の紹介を行う。

《所要時間：110 分》

- ①イントロダクション(10 分)
- ②エクササイズ：グループに分かれて、LGT+C の制作を行う(休憩込で 60 分)
- ③シェアリング：グループ内で一人ずつ順番に作品の紹介を行う(15 分)
- ④まとめ、相談機関の紹介(15 分)
- ⑤感想文記入(10 分)

【実施】

① 市内B中学校

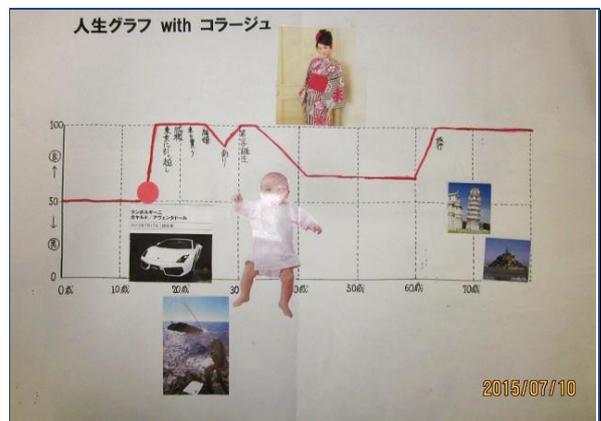
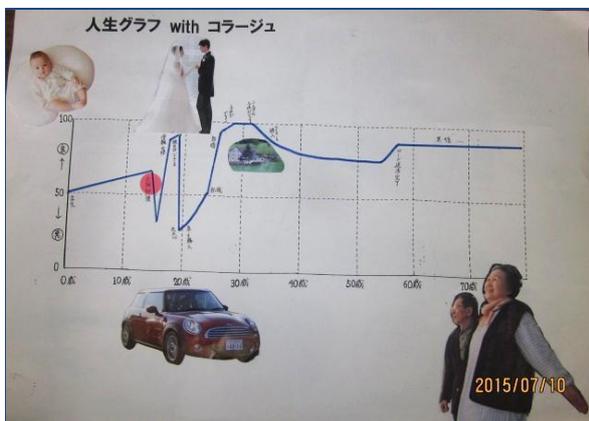
日 時：平成27年7月10日(金)

対 象 者：3年生

参 加 者：14名

ス タ ッ フ：学校職員(2名)、ひきこもり検討委員(3名)、ひきこもり相談窓口(2名)

《生徒の作品》



II-2. 支援の報告

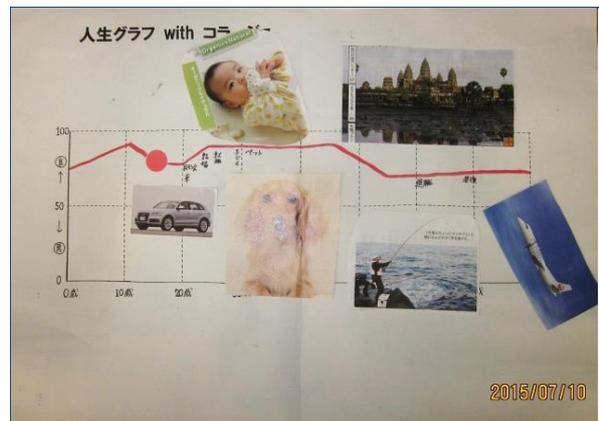
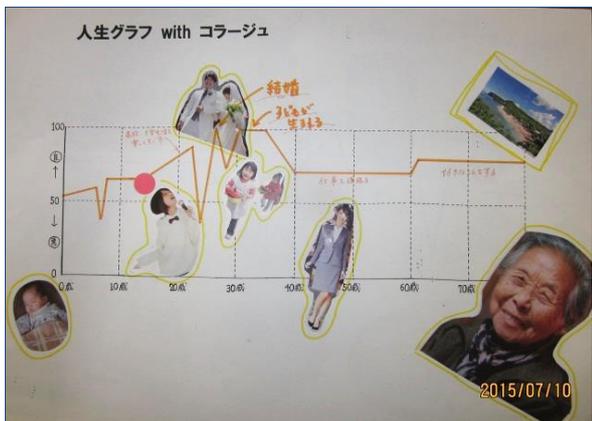
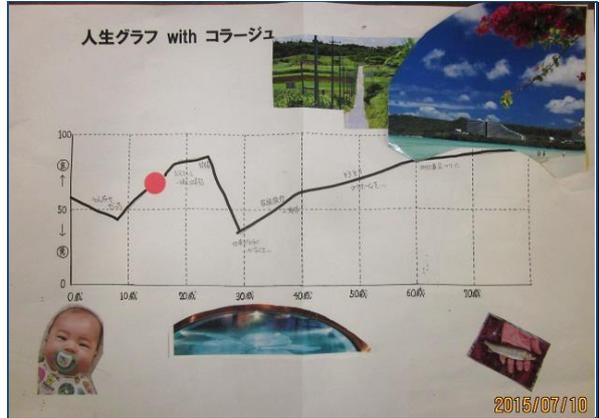
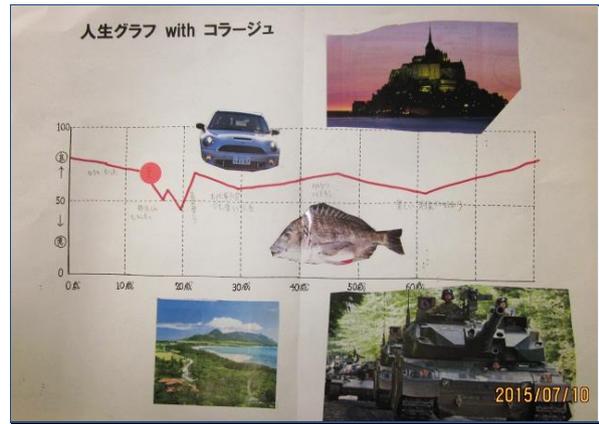
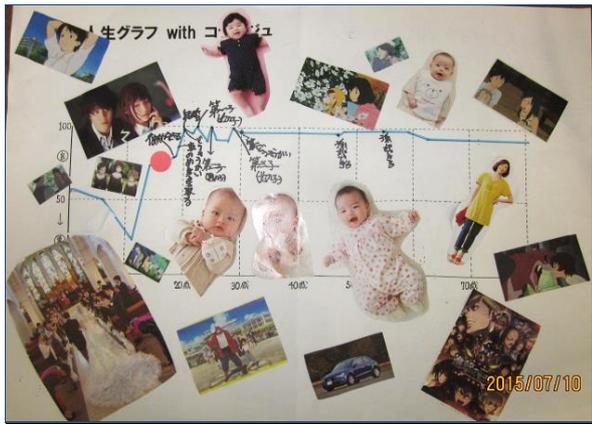
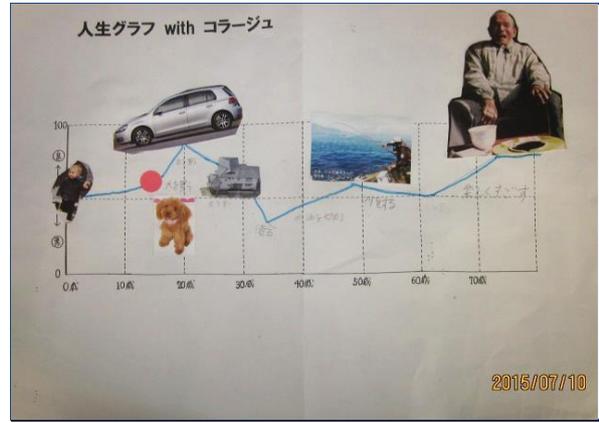
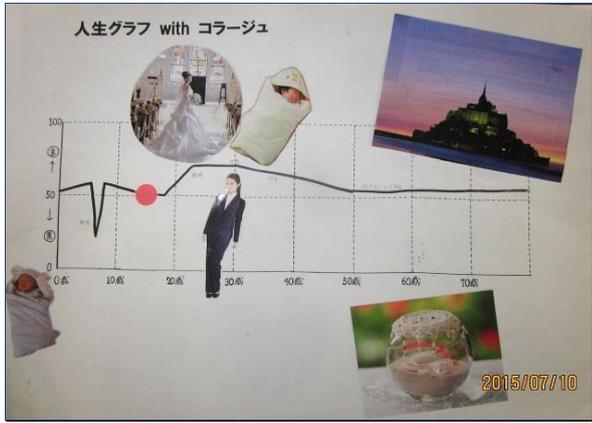


表1 B 中学校生徒の感想文

ID01 こんなにまじめに今後の人生を考えたのははじめてでした。今後、この授業を通して、こんなに深く人生を考えたことがなかったので、よい機会になったのではないかと思います。今の自分たちだったら、こんなに楽しく人生を考えられる、ことが自分の未来につながったらいいなと思います。

ID02 今日のグループワークは楽しかったです。自分の未来の目標や夢などをしっかり持つことは大事だと思います。だから、こうして自分の未来を想像することで、しっかりと生きがいや目標を決めることができると思うし、いい体験になったと思う。また、いままでしたことのない雑誌をはることもとても楽しかった。

ID03 あまりしっかりと自分の先のことを考えたことがなかったので、改めて自分のやりたいことが分かった。他の人のグラフを見ることでいろいろな考え方があると感じた。

ID04 今日の授業を通して、将来の過ごし方や生き方がだいぶ変わってきたと思う。僕も前まではひきこもっていたときもあったけど、次からは一人で悩まずにいろいろな人が自分の周りにいるのでおもしろく相談してみようと思いました。

ID05 人生を初めてしんげんに考えることができました。どうなのか、ぜんぜん分かりませんでした。人生を考えるのはとても楽しかったです。どうなっているのか、どんな家や車を買っているかなど、いろいろなことを考えていました。みんなで作っていたので、とても面白かったです。

ID06 今日のグループワークはとても楽しかったです。今後の人生のことについて、みんな楽しく話しあったりするのは、とても楽しかったです。

ID07 今日のグループワークを通して、自分の将来ややりたい事が少しだけ決まった気がします。とても面白かったし、話を聞くと「自分は一人ではない」と感じられました。

ID08 今日の授業は楽しかったです。あまり普段自分の将来のことを考える時間がないので、想像できたかなと思います。考えると、あれやりたい、これやりたいといっぱい出てきました。

ID09 初めて自分の未来の計画を立ててとても楽しかった。また、自分のだけでなく、人の未来の計画などもきけて、改めて未来のことを考えました。そして、また、このようなサポステというのがあることをしり、そこではひきこもりの人たちと話をしたりしている所があるのかあと初めて知ったのでよかったです。今日、このようなグループワークでした。人生の計画は、一歩でも、この計画通りに近づけるようにしていきたいと思いました。

ID10 自分の未来をしっかりと初めて考えることができた。また、みんなの考えたものを見ているとすごく楽しかった。こういうグループワークは初めてだったので面白かったです。何の仕事につくかは決まっていけどみんな決まっていたのですごくいいと思いました。計画は計画でしかないので、良い方向に進んでいけるようにしたいです。

ID11 自分が思っていたよりも、自分は将来の事について考えられている事がわかった。グラフを書いている中で、親の死や大学受験など大変な事で、普段は考えないような事を真剣に考える事が出来た。自分の周りには、自分を支えてくれる人が多くいるんだということを実感して、とても安心した。自分一人だけで悩む事はしないように気を付けたいと思った。

Ⅱ-2. 支援の報告

ID12 大人になってどんな生き方をしたいか、どうなるのかなんて考えたことなかったし、将来何をやりたいかもそんなにはっきり決まってるので、今日、人生グラフをやってみて前よりも自分の将来をイメージできたかなと思います。これから先イメージ通りにはいかないかもしれないし、何があるか分からないけど、1つでも何か目標を持っておきたいです。これから悩むこともあると思うけど、しっかり進んでいきたいです。

ID13 自分の未来のことを楽しくそうぞうしたり、みんなの未来のことを楽しく聞けた。自分の未来で、いろんなことをしてみたいことを見つけることができた。

ID14 普段、私は自分の将来について考える事もあるけれど、今日書いた人生グラフみたいに細かく考えることはなかったので「ああ、自分はこんなに将来していくんや」と感じさせられました。自分のことを発表するのはちょっと恥ずかしかったです。でも逆にみんなのを見ることができて友達の知らない部分を見ることができておもしろかったです。人生グラフを書いている時に「あれもこれもしたい！！」といっぱい出てきました。自分の新発見をできてうれしかったです。



② 市内C中学校

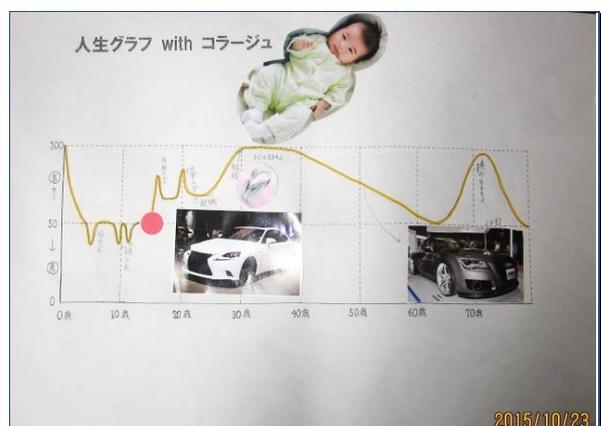
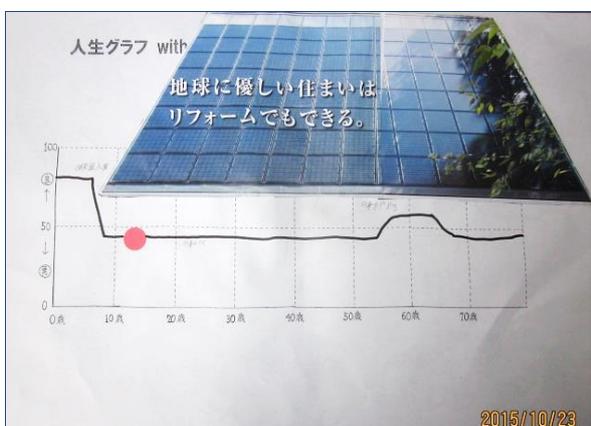
日 時：平成27年10月23日(金)

対象者：1年生、3年生

参加者：10名

スタッフ：学校職員(7名)、ひきこもり検討委員(2名)、ひきこもり相談窓口(2名)

《生徒の作品》



II-2. 支援の報告

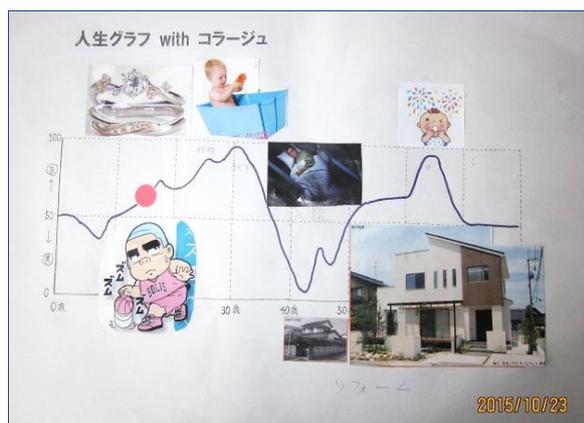
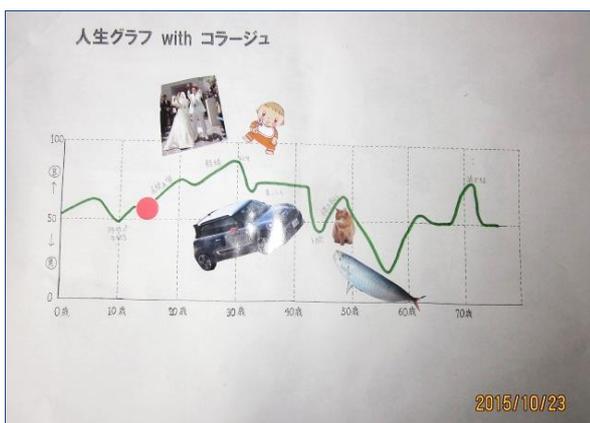
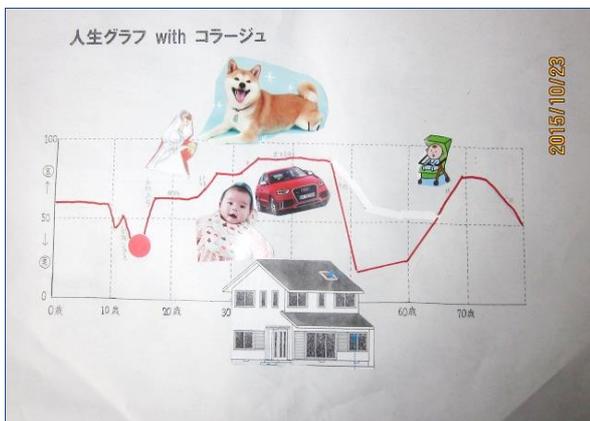


表 2 C 中学校生徒の感想

ID15 人生グラフ with コラージュを作るのはむずかしかったけど楽しかったです。もっと自分のことをしりたいと思いました。

ID16 人生グラフ with コラージュを作るのが楽しかったです。現実ではどうなるのかこれから楽しみです。

ID17 人生グラフをつくるのが、とても楽しかったです。自分の人生のグラフにあった写真をさがすのが楽しかったです。今日わかったことやしたことをおぼえておきたいと思いました。

ID18 ひきこもることはないけどもしひきこもったら相談しようと思います。

ID19 この調査票を見返すとグループワーク前とグループワーク後で変わっているところがあっておどろきました。

ID20 みんなの未来よそう図が見えてよかったです。自分の過去をふりかえる機会になれたのでよかったです。自分が書いたようになるように努力したいです。

ID21 人生グラフを初めて書いて、自分の将来について考えるのはとても面白かったです。みんなのグラフを見るとほぼ全員が上がったり下がったりしていました。だから悪いことがあってものりこえたいと思いました。

ID22 自分の過去・現在・未来についてグラフにしてみたことで、「やっぱり自分はこんな生き方がいいな」ということがわかりました。今は不安とかの方が大きいけどものごとを前向きに考えられたらいいです。

ID23 このグループワークでみんなの前などで発表するというのはとても緊張したけど、いい経験になりました。人生グラフを書いてみて、とても楽しかったです。みんなのもとてもおもしろかったです。

ID24 グループワークをした感じたことは将来のことを考えてみるのはおもしろいことだと思います。そうすると何かできそうな気もしてくるのでとてもよかったです。



「人生グラフ with コラージュ」を用いたグループワークの調査結果 I

東 知幸(紀南こころの医療センター)

2015.7.13

目的

「人生グラフ with コラージュ」を用いたグループワーク(GW)が参加生徒に与えた心理的効果を調査する。

方法

日時 2015年7月10日(金) 5、6限(110分)

GW参加者 B中学校3年生14名(男子9名、女子5名)、全員から調査協力が得られた。

スタッフ 7名(ひきこもり検討委員3名、ひきこもり相談窓口担当者2名、学級担任1名、養護教諭1名)

手続き ①GWの趣旨説明(5分)、②調査の趣旨説明および生きがい感を測定するPILテストの実施(5分)、③「人生グラフ with コラージュ」制作方法の説明(5分)、④作品の制作(60分)、⑤作品の発表(15分)、⑥まとめと支援機関の紹介(10分)、⑦PILテストと感想文の実施(10分)

分析方法 ①感想文の分析、②GW前後に実施されたPILテストの得点について対応のある t 検定(両側検定)で分析した。有意水準は5%とした。

結果と考察

①感想文の分析

参加生徒の感想文を表1に示した。14名中10名の感想文の中に「楽しかった」あるいは「面白かった」という記述があり、「面白くなかった」などの否定的な記述が皆無であることから、生徒たちは楽しみながらGWに取り組んでいたと考えられる。

『こうして自分の未来を想像することで、しっかりと生きがいや目標を決めることができると思うし、いい体験になったと思う』(ID02)、『この計画通りに近づけるようにしていきたいと思いました』(ID09)という記述などから、このGWは生徒たちの生きがい感や動機づけを向上させたと考えられる。

また、『自分の新発見をできてうれしかったです』(ID14)、『他の人のグラフを見ることでいろいろな考え方があると感じた』(ID03)という記述などから、このGWによって生徒たちは自己理解や他者理解を深めることができたと考えられる。

さらに、『自分の周りには、自分を支えてくれる人が多くいるんだということを実感して、とても安心した。自分一人だけで悩む事はしないように気を付けたいと思った』(ID11)という記述などから、このGWは生徒たちに「困ったときに自分を支えてくれる人はたくさんいる」ということに気づいてもらうのに役立ったと考えられる。

②PILテストの分析

GW前後のPILテストの結果を図1に示した。GW前のPIL得点の平均値は103.14であったが、GW後には114.86点へと大幅に上昇しており($t(13) = 6.03, p < 0.001$, 効果量 Glass's $\Delta = 0.84$)、このGWによって生徒たちの生きがい感が大きく向上したことが推測される。

「人生グラフ with コラージュ」を用いたグループワークの調査結果 II

東 知幸(紀南こころの医療センター)

2015.10.26

目的

「人生グラフ with コラージュ」を用いたグループワーク(GW)が参加生徒に与えた心理的効果を調査する。

方法

日時 2015年10月23日(金) 5、6限(110分)

GW参加者 C 中学1年生および3年生 10名(男子8名、女子2名)。全員から調査協力が得られた。

スタッフ 14名(ひきこもり検討委員2名、ひきこもり相談窓口担当者2名、C中学校教員7名)

手続き ①GWの趣旨説明(5分)、②調査の趣旨説明および自我同一性(※心理的発達との程度と関連する)を測定するMEISテストの実施(5分)、③「人生グラフ with コラージュ」制作方法の説明(5分)、④作品の制作(60分)、⑤作品の発表(15分)、⑥まとめと支援機関の紹介(10分)、⑦MEISテストと感想文の実施(10分)

分析方法 ①感想文の分析、②調査協力者数が先行研究から推定された必要サンプル数(約26名)に満たないため統計学的検定は行わず、効果量 Glass's Δ のみ計算した。

結果と考察

①感想文の分析

参加生徒の感想文を表2に示した。10名中7名の感想文の中に『楽しかった』『面白かった』『良かった』などの記述があり、否定的な記述が皆無であることから、大半の生徒は楽しみながらGWに取り組んでいたと考えられる。

『現実ではどうなるのかこれから楽しみです』(ID16)、『自分が書いたようになるように努力したいです』(ID20)、『何かできそうな気もしてくるのでとてもよかったです』(ID24)という記述などから、このGWは生徒たちの将来への期待感、やる気を向上させたと考えられる。

また、『やっぱり自分はこんな生き方がいいな』(ID22)、『もっと自分のことをしりたいと思いました』(ID15)という記述などから、このGWは生徒たちの自己理解を深めるきっかけになったと考えられる。

さらに、『ひきこもることはないけどもしひきこもったら相談しようと思います』(ID19)という記述から、このGWは生徒の相談意欲を高めるのに役立ったと考えられる。

まとめると、「人生グラフ with コラージュ」を用いたGWは参加生徒の将来への期待感ややる気を高め、自己理解を深めるきっかけとなり、さらに相談意欲を高めるなどの心理的効果をもたらしたことが示唆されたといえる。

②MEISテストの分析

図2はGW前後のMEISテスト結果である。GW前のMEIS得点の平均値は101.10点であったが、GW後には103.30点へと増加していた。ただし、効果量 Glass's Δ は0.09と小さかった。このGWは中学生の生きがい感を大きく向上させることが先行研究(※調査結果I)ですでに示唆されているが、自我同一性に与える効果は、もちろん個人差はあるが、全体とするとあまり大きくないことが今回の調査では示唆された。

MEIS得点が低いと不適応状態に陥りやすいといわれているが、参加生徒のなかでGW前のMEIS得点が最も低かったのはID22であった。しかし、ID22のMEIS得点はGW前後で56点から76点へと20点も上昇していた。これは参加生徒のなかで最大の得点上昇率である。MEISテストから見て最も不適応状態に陥るリスクが高いと考えられる生徒にこのGWが最も大きな効果をもたらせたことは有意義であったといえる。

Ⅱ-2. 支援の報告

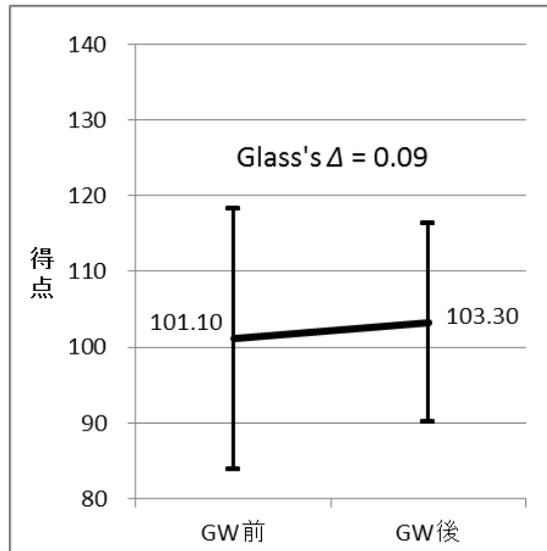
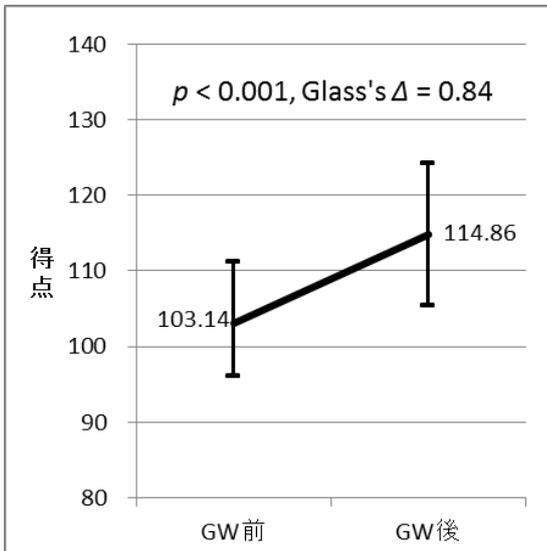


図1 PIL 得点(生きがい感)の変化
エラーバーは 95%信頼区間を示している

図2 MEIS 得点(自我同一性)の変化
エラーバーは 95%信頼区間を示している

注)PIL: Purpose-in-Life test (Crumbaugh, J.C. & Maholick, L.T., PIL 研究会, 2008)

注)MEIS: 多次元自我同一性尺度(谷冬彦, 2001)

(7) ひきこもり検討委員会 講義

「ひきこもり経験があり、ハートツリーや窓口の支援を受けたことのある A 氏の話」

講師：A 氏
 日時：平成 27 年 10 月 17 日(土)
 参加者：31 人(事務局含む)

【講演】

布袋先生が、事前に質問を箇条書きにしてくださっていますので、その質問にそってお話したいと思います。

- 質問1. ① どんな小・中学生だったか。親や先生、友人との関係はどんなふうだったか。親とのバトルはどうか。
 ② どんな高校生だったか。親や先生、友人との関係はどんなふうだったか。親とのバトルはどうか。
 ③ ハートツリーに来るようになったきっかけは何か。
 ④ 大学生活で印象に残っている出来事はどんなことか、また、自分の現在に影響を与えていると思う物の見方や考え方についてエピソードはあるか。
 ⑤ 現在は、どんな仕事をし、どんな生活をしているか。

小さい頃は、かなり神経質な子で、幼稚園や小学校の時も、すごく親しい友人以外誰とも話さないことが普通でした。内向的、引っ込み思案で、あまり運動も得意ではなかったです。おばあちゃんっ子でした。

小学校4年生位までは、恐竜や怪獣が好きで、それは男の子だとすごく普通の趣味かと思いますが、それを父がわりと気軽に馬鹿にする一面があって、後々考えると悪い影響となったと思います。

逆に父は、アウトドア派でとにかく釣りが好きで、僕とは正反対でした。元々の素質が違う感じでした。育ち方としては、結果的にインドア派だったと思います。

中学3年生の2月、卒業前に、唐突に行くのをやめて、2年間ひきこもりの生活でした。高校受験し合格したようだったのですが、一日も行かず辞めて、その2年後に普通科の定時制に入り、3年で卒業しました。同時期にハートツリーに通っていました。親が、どこで見たかはわからないのですが、こんな場所があるから行ってみたら、ということで、見学し、通所を始めました。電車通学だったので、駅に午後3時頃着いて、学校が始まる6時まで通所し、毎日ハートへ行く時期もありました。

その後、美術大学の油絵学科に進学し、卒業しました。大学では、絵を制作し、芸術の特有な理論、芸術に伴う哲学的思考が今に至って影響を受けていると思います。

現在は、県外で仲間と画廊を開いています。その仕事では、現状は、収入はありませんので、派遣労働で収入を得ています。

- 質問2. どのようにして不登校(ひきこもり)になったのか。個人的な風景やきっかけとなった出来事や心理的・精神的な問題はどんなことか。(振り返ってみて、なぜ自分はひきこもったのか。)

元々神経質なのもあり、一定以外距離があると一切話せない、元々ひきこもりやすい方だったと思います。小学校の間はまだましでしたが、中学校から学業全般、特に行事やクラブ活動がとても負担になりました。折れ線グラフで示すとすれば、右肩上がりにストレスが高くなり、許容範囲を超えて、最後ひきこもったというようなイメージです。

詳しく言うと、クラブ活動もかなり嫌で、文科系の美術や読書があれば喜んで入ったのではと思われるのですが、その頃、サッカー・野球・テニス、文科系では器楽部があったのですが、やりたいことが一つもなく、嫌々テニスに入部し、半年で行かなくなりました。先生やおばあちゃんに「行かなあかん」と言われた事もありました。クラブは行かなくなってからは、一度も行かず、まだ、学校へは行っていたのですが、すでに不登校の前兆のようだったと思います。

ある時、部活時間帯に図書室へ友達と二人で勝手に入って、本を読んでいたら、先生に「クラブ活動中に何をやっているの」と怒られたことがありました。そこで、自分のやりたい事と学校の中でする事とが決定的に食い違うというか、学校では、興味があることは公式には何一つ出来ない印象を持ちました。

質問3. ① ひきこもっていた時の心情はどんなふうか。(自他のまなざしをどう感じていたか)
「もうほとんど時間が動かない」「ただただ苦しい」「もう生きていけない……」
「希望が見えなくなった」などの思いに囚われることはなかったか。
② どこに出られて、どこには出られなかったのか。誰なら会えて、誰には会えなかったのか。「外出もせず、家族との交流もない状態だったのか」「外出はしませんが、家族との交流がある状態だったのか」「外出もできるし家族とも関わられるが、それ以外の対人関係はない状態だったのか」

①に関しては、書いているまま、もうそのままに感じていました。

②外出は、車でどこかへ連れて行ってもらうなどはありませんでした。

ひきこもり始めてからは、全く口をつぐんで家の中で一切、話さずでした。それは、ひきこもりを始めてやまるまで、一貫してそうでした。元々、家族に辛いことを相談するという事は、昔からできていなくて、現在もあまり出来てはいませんが、以前より余程良いと思います。家族には心配なことを相談できないことが、ひどいマイナス要因になっていったと思います。これがなければ、ひきこもっていない可能性もあるかもしれません。

些末なことですが、ペットに猫がいました。猫はすごく好きで、家の人というより、心のよりどころが多分にありました。飼うと避妊の手術を受ける必要がありますが、なかなか避妊の手術に連れて行ってはもらえず、親が、生まれた猫を簡単に捨てにしているのを見て、結構ショックを受けていました。猫がどれくらい大事かというところが、相談できない自分と家族との感覚に同調がなく、自分と同じ気持ちの人が家族にはいない状況がありありとあって、かなりダメージを受けました。

質問4. 転機はどんなことだったか。いつごろから少し「時間が動き始めたような感覚」、あるいは「未来への感覚」が内発する風を感じられたか。「新しい自己概念」や「自分にとっての意味の体系」を獲得していく過程でどんなに進んでいったか。

ひきこもりから脱出というか、ひきこもりをやめることが出来た時期がありました。それが、必ずしもいいようには受け止められないのですが、家が火事になって、それが自分の原因で起きたのもあったのですが、それをきっかけに突発的に家を出ました。具体的なきっかけはそれになります。

その後、入院や親戚宅に数ヶ月いました。徐々に回復していったというより、本当に、突然のことでした。ひきこもる場所が消滅したというのもありました。自ら無理矢理外へ投げ出される状況をつくった、できてしまったというか、そういう感じで終わっています。

「新しい自己概念」や「自分にとっての意味の体系」は、唐突に出ていったので、そういう

感覚はその頃は、ほとんど発生しなかったと思います。今現在は、ひきこもり前やひきこもり中に比べ、獲得していると思います。10年の歳月をかけて獲得したという感じです。大学に行った、一人暮らしをしたというのも自分の基盤を形づくる材料に大いになっていると思います。

質問5. ハートツリーはどんな場所だったか。

ありふれた言い方で申し訳ないのですが、一息つける場所で、学校にでかける前に一安心させてもらえる場としてとても支えになってもらった場所だと思います。

質問6. ひきこもり支援に関わっている人たちに伝えたいことはどんなことか。

中学校の時の話に戻りますが、ひきこもっている人は元気がなくなっていると思います。学校に行く、働くにしても、何か困難に立ち向かう力、嫌な事に頑張る、何かやろうという気持ちになれない限り、働くことや学校へ行くことは難しいので、頑張る力は失われると、ひきこもると思います。やりたい、興味に向かって行けない、それに従前に没頭できない。それが、一番の障害になると思います。

中学校のひきこもりと大人のひきこもりでは、条件が異なると思います。自分の経験から言うと、やりたいと思うことが中学校の中に一切なかった、学業や行事に従事することで気力が少しずつ削られる感じでした。

それでも、家が良いければ、居心地の良い家族、仲の良い休まる家庭だったら、学校で全然良いことがなくても、まだ全ての気力がなくなることがなかったのかもしれませんが、自分の場合は、家の中での人間関係、支えがなかったのも、学校が嫌なことにより気力が削られつくし、ひきこもりに至りました。

何かやりたいことが出来る、趣味でもいいと思うが、芸術でもスポーツでもやっている時が一番おもしろい、思春期に思う存分出来た喜び、それを与えてあげることが、ひきこもりになるような気力をなくす状態にさせないための予防線になるのではと思います。

【質疑応答】

- Q1. ① 中学3年生で唐突にひきこもったということですが、不登校直後の気持ちを教えてください。
- ② 周りの人の対応はどうだったですか
- ③ ②に対して、どう感じましたか
- ④ 芸術に伴う哲学的思考影響を受けたとのお話でしたが、具体的にはどういったところでしょうか。

A1. 中3の2月の前、秋頃だったかもしれないが、学校をさぼって読みたい本を家で一日読むということをしたことがあり、非常に開放感で、今日は嫌な思いをせず済んだ、救われたと感じたことがありました。学校に通う日との落差、コントラストがついたというか。行かない、行かずに済むことが、こんなに助かることかと思って、ますますこれ以上行くのが難しくなったということがありました。

- ① 取り乱すというのはなかったです。「何で行かないの」と予想のつく範囲の対応を家族はしていました。
- ② 辞書をながめる趣味があつて、何日か休んでいたある日、見ている時に、母が、「行かない理由を話してごらん」と聞いてきたので、行く事ができない苦しみを聞いてもらえるのかと安堵して泣いたことがありました。その前に、辞書を眺めることに関して、「こんなものいくら詰め込んでも何もならんで」と言われ、的外れなことを言っているなあと感じました。ほとんど、気晴らしのようなものとしか思ってな

かったのに、そう言われたことは、辞書に対して言われるというより「学校がそれや」という感じはしていました。

- ③ 要約するのはとても難しいです。芸術全般、時代が現代に近づくにつれ、一見して意味が分からない作品がどんどん増えていて、それは作品を支える理屈が、昔は一重で済んでいたのが、踏まえたうえで、二重、三重、五重の理屈があって、その理屈のパーツを一つひとつ学んでいかなければと解読できないという流れがあり、それが個人的にはとてもおもしろいものだと思います、直感的に把握できる、分かるというのが、自分の自信になったというか、わかるから賢いというのも自慢のようになって見苦しいというか嫌な感じになるかもしれませんが、自分がこういうのがわかるという喜びというか、難解な作品を見られることが嬉しいというのがあります。

Q2. この10年で表現が合っているのかはわかりませんが、すごくたくましくなっているのではと思います。大学に行って、周りとの関係や流れが上手くいったのもあると思うのですが、そこでも周りの人との関係は避けられないもので、中学の時にうまくいかなかったのは対人関係も大きいと思うが、そういったところは大学でも出てくる可能性があったと思うが、そこをどう整理できたとかトラウマみたいなのをどうにかたちでうまくやれてきたのかを教えてください。

A2. 大学に入ったとはいえ、全て解決、大丈夫というのではなかったです。時間の積み重ねで外へ出られるように持ちなおしているのですが、大学でも、対人関係などで辛いこともあり、疲れてということも時々起きています。なぜ、それを繰り返してもひきこもらず、やり過ごせたかというのは、なかなかわからないのですが、何で持続できているかは、簡単には言えないのですが、画を描き自己表現、心情を投影、うつうつたる気持ちを書こうとした画を描いたことがあったり、外に気持ちを出す方法があったというか、中学校の時よりも出来たと思います。それが、エネルギー、薬になったというかそれでもっていたのかなと思います。今の所は、それしか考えられないです。

Q3. ひきこもる前に予防できたらいいとは思いますが、そうなる前に、こういう関係性やアプローチがあれば家族に悩みを伝えられたのかもとか、具体的にこう接してほしかったことはないですか。

A3. ひきこもっていた時、自分の部屋に親の持ち物の筆筒があったのですが、ドアを締め切っても入られるというのが嫌で、無理に移動させたこともあるのですが、元々自分しかいないスペースを与えてもらっていたら良かったかもしれないと思いますが、それが関係を持ち直す材料にはならないと思いますが、思ったように一人になれる場所があったら良かったのではと思います。

自分は、親と交流できないのは根深いものがある、幼少期から本質的に交流できていないので、具体的にこうしてほしかったことというのは、案外考えたことがないです。

恐竜や怪獣が好きだったと話しましたが、5歳頃に父に鼻で笑われたことがあるのですが、そういうことはしない方がいいと思います。好きなものを小馬鹿にするというコミュニケーションが一回あると、自分の場合は次回以降「これいいでしょ」というような話はしない、一度で撤収というか、それ以上コミュニケーションを求めない人なので、そうでない人もいると思うが、大きなつまづきになったと思います。子供の興味のあるものに、できるだけ寄り添うことがいいのではと思います。

Q4. ゆくゆく、お父さんに誘われたとして、お酒くらいつきあおうとか、何かきっかけがあれば可能ですか。

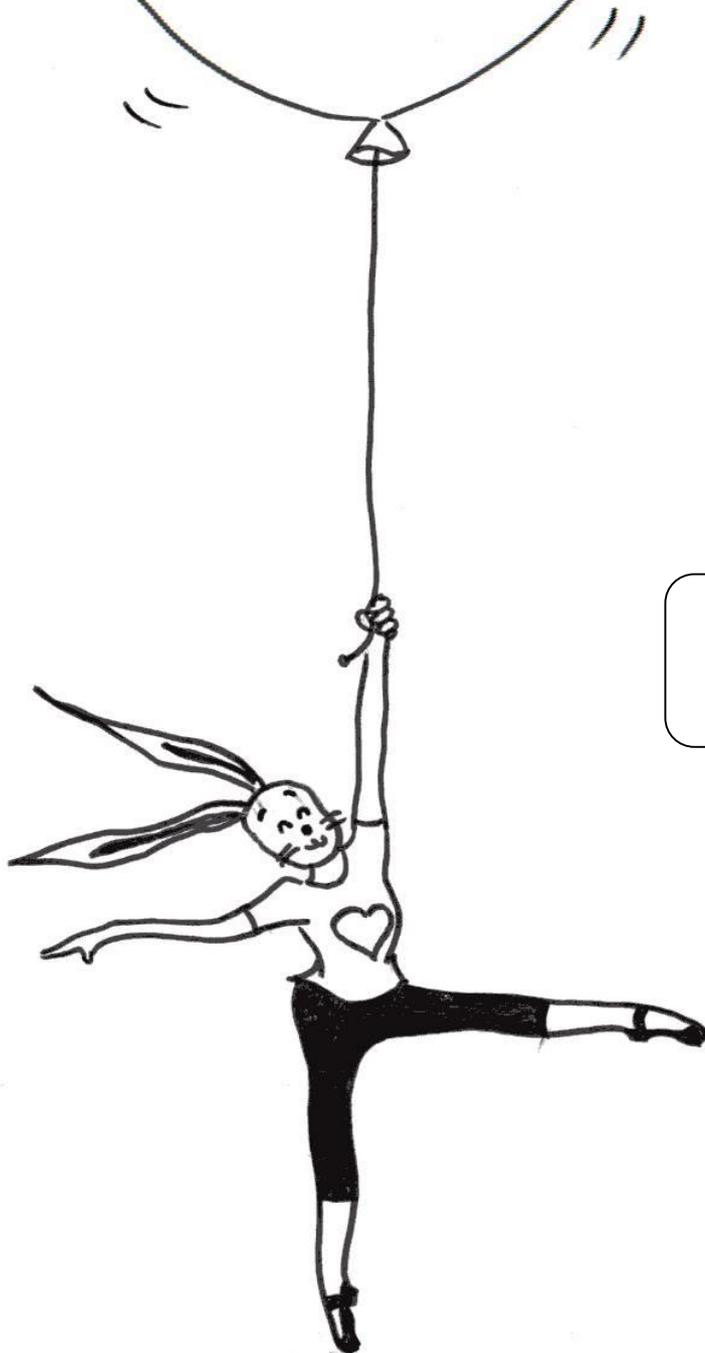
- A4. できなくはないが、話題はないという感じがとてもします。いまは、嫌いというほどではないです。話がもつのであれば行けなくもないかもしれないです。
- Q5. 中学校の部活は、大多数が興味のあるものだったり、学校の規模によったりもすると思いますが、趣味に合わない好きになれない部活しかなくても入部を必ずというような感じですが、それに対して、配慮やこんな仕組みがあればというのがあれば。
- A5. 最初一回決めたらずっと続けなければならないのではなく、かけもちや、行ったり来たりできたり、見学期間が長いなど、入部を強制するのではなく、流動的になればいいのではと思います。どこかに必ずというのもない方がいいと思います。希望したら移れるのもあるとは思いますが、今の状況がわからないので違うのかもしれないのですが、自分の中学の事で考えると、融通がきかない印象があるので流動的になればと思います。部活をしないのも認めてもいいのではと思います。



Ⅲ. 參考資料



家から **子ども** が
でられない
家族 でかかえこまないで
ほっこり しませんか



ほっこり会
(ひきこもり家族の会)



特定非営利活動法人
ハートツリー

Heart-tree is a Wakayama-based non-profit organization established in 2006



 ハートツリーは若者の未来への一步を応援しています。

生きづらさや課題を抱えた若者の、安心して過ごせる「居場所」づくりから、就労支援まで、社会へと飛び立っていくための緩やかな歩みを私たちは全力でサポートします。



安心して過ごせる「居場所」です。
等身大の自身を受け入れながら、
「歩きはじめる」力をつけていきます。

**ひきこもり者社会参加支援センター
ひなたの森**

「外へ一歩踏み出したい」「誰かと話をしたい」
そんなときに気軽に立ち寄れる
『居場所』がひなたの森です。
相談・社会体験活動・レクリエーションなど

〈お問い合わせ〉
〒646-0028
和歌山県田辺市高雄一丁目3番27号
tel 0739-25-8308
fax 0739-34-2066
mail info@heart-tree.org
web http://heart-tree.org



相談
困っていること、生活について、将来のことなど、ご本人・ご家族からの相談。まだ外出が心配な方は、定期的な家庭訪問をご利用できます。(安心感や安堵感をもてる環境)

ミーティング
毎月1回開催。メンバーが中心となって次月の活動予定などを決めます。

イベント参加
近辺で開催される地域のイベントでバザー出店をし、接客をします。人とのふれあいをゆるやかに体験します。

社会体験活動
居場所から一歩出て、さらに人間関係を広げ、社会参加につなげる支援です。10ヶ所程度の体験先を用意しています。「できること」を増やしていきませんか？経験の積み重ねと自信をつけていけるよう、支援します。

嘱託医による支援
個人の状態像に合わせた支援をおこなうため、専属の医師による医療的支援を実施しています。

専門家による支援
臨床心理士、保健師、社会福祉士による総合的な支援をおこないます。(支援の指針を明らかにするためのもの)

■利用対象
仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態の青少年

■対象年齢
15歳～40歳までの男女

■利用料
5,000円(1ヶ月・保険も含まれています)

■開所時間
月曜日～金曜日 9:00～18:00
※居場所の利用時間は13:00～17:00です
※土・日・祝・臨時休所の場合を除く
※見学、体験等、希望の方はスタッフまでご相談ください

居場所の役割

- ・ひきこもり青年の社会復帰を目指すための支援
- ・情報の提供、協力、つながり(ネットワーク)
- ・啓発活動

お問い合わせ
〒646-0028
田辺市高雄一丁目3番27号
Tel:0739-25-8308
Fax:0739-34-2066
Email:info@heart-tree.org
HP http://heart-tree.org

・ルルコロ菓子工房
・南紀若者サポートステーション
・NPO法人ハートツリー ひなたの森
・田辺市民総合センター
(株)紀陽銀行 田辺支店
ファミリーマート
田辺第一小学校
田辺郵便局
・cafe rurucoro
・フェスタ21 第2駐車場
とがじ橋
高尾寺
JR新伊田駅
興隆神社

NPO法人 ハートツリー
Heart-tree is a Wakayama-based non-profit organization established in 2006



「働く」ことの
自信へと繋げる就労準備の「場」
ルルコロ菓子工房
cafe rurucoro(カフェルルコロ)
手作り雑貨 tete

からだに優しいお菓子とカフェ

rurucoro
cafe rurucoro(カフェルルコロ)
〒646-0042
和歌山県田辺市南新町 173(銀座商店街)
tel 0739-24-0066

ルルコロ菓子工房
〒646-0028
和歌山県田辺市高雄一丁目 23 番 1 号
田辺市民総合センター北館内

ONLY ONE PRODUCT
cafe rurucoro is a NPO/Non-profit organization established in 2008.
cafe rurucoro is a NPO/Non-profit organization established in 2008.

手作り雑貨のお店 tete
インターネットショップ
web <http://www.zakkaya-tete.com/>

カフェ ルルコロ
<http://rurucoro.tumblr.com/>
ホームページの QR コードは
こちら ↓



「就労」に向けた
それぞれのステップアップを応援します。

南紀若者サポートステーション
(和歌山県・厚生労働省認定事業)

15 歳から 39 歳までの若者への就労支援
「働きたいけど働く自信がない」
「働いていない期間が長いので就職できるか心配」
「どんな仕事か自分に合っているかわからない」
「対人関係が苦手な就職活動が辛い」など
職業的な自立のためのご相談を受け付けています。
相談の他にも、就職に役立つセミナーなどを
開催しております。

〒646-0028 和歌山県田辺市高雄一丁目 23 番 1 号
田辺市民総合センター北館
tel 0739-25-2111 fax 0739-25-0085
mail nanki-saposute@ec2.technowave.ne.jp
web <http://www.nanki-saposute.jp/>

串本サテライト

〒649-4125 東牟婁郡串本町姫27
養春小学校 2階 5・6年生教室
tel 0735-67-7172 fax 0735-67-7173



ホームページの QR コードは
こちら ↓



<http://www.nanki-saposute.jp/>

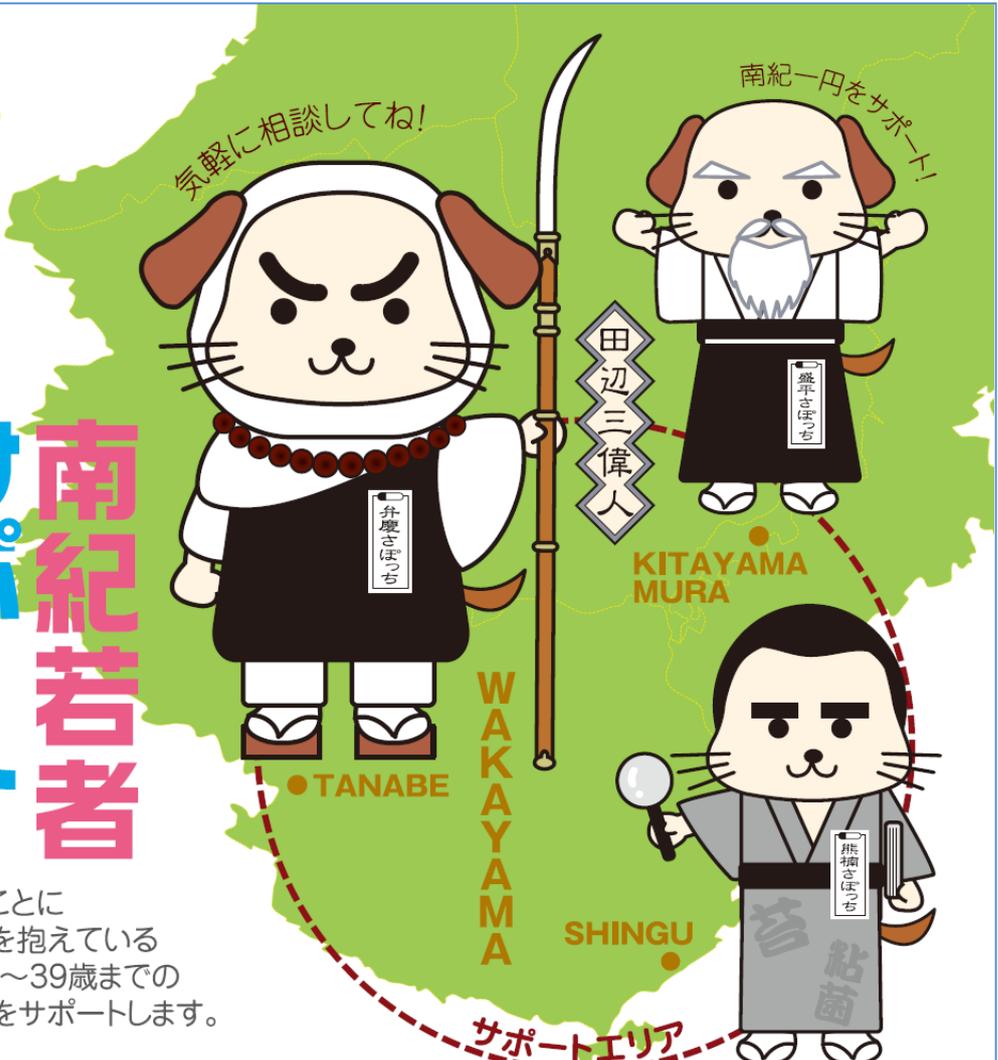


和歌山県・
厚生労働省
認定事業

サポ ステーション

南紀若者

働くことに
悩みを抱えている
15歳～39歳までの
若者をサポートします。



気軽に相談してね!

南紀一円をサポート!

田辺三偉人

WAKAYAMA

TANABE

KITAYAMA MURA

SHINGU

サポートエリア



南紀若者 サポートステーション

ご利用日時: 月～金曜/10:00～18:00
(土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み)

〒646-0028 和歌山県田辺市高雄一丁目23番1号
田辺市民総合センター北館

TEL.0739-25-2111
FAX.0739-25-0085



携帯サイトへアクセス! →

[Eメール] nanki-saposute@ec2.technowave.ne.jp
[ホームページ] <http://www.nanki-saposute.jp/>
[携帯サイト] <http://www.nanki-saposute.jp/ktai/>



串本サテライト

ご利用日時: 火・水曜/13:00～16:00
木・金曜/11:00～16:00

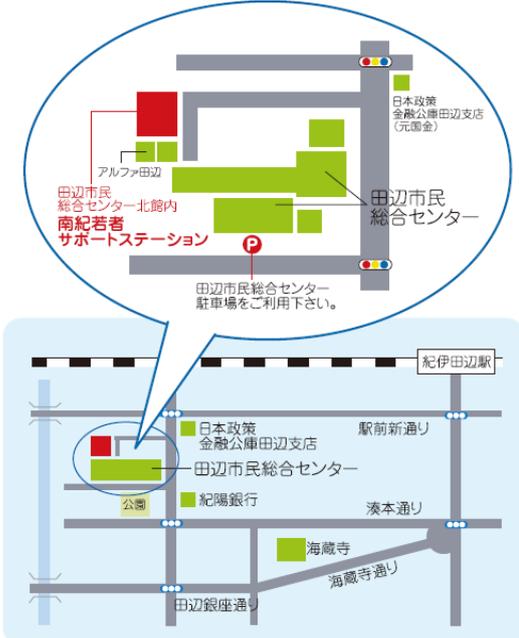
東牟婁郡串本町姫27 養春小学校 2階 5・6年生教室

TEL.0735-67-7172
FAX.0735-67-7173

利用料 無料

但し、プログラム実施時に
必要に応じ実費を頂きます。





田辺市民総合センター北館内
南紀若者サポートステーション

田辺市民総合センター
駐車場をご利用下さい。

日本政策金融公庫田辺支店 (元南金)

アルファ田辺

田辺市民総合センター

紀伊田辺駅

駅前新通り

日本政策金融公庫田辺支店

田辺市民総合センター

公園

紀陽銀行

湊本通り

海蔵寺

海蔵寺通り

田辺銀座通り

南紀若者サポートステーションは

「働くことに自信が持てない」
 「対人関係が苦手安定した社会生活を送りにくい」
 「何かを始めたいけど、どうしたら良いか悩んでいる」

そんなあなたの **はじめての一步** を応援します！

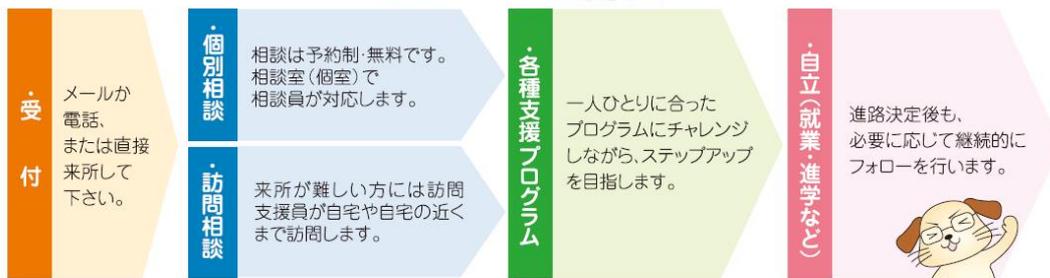


地域若者サポートステーションとは？

地域若者サポートステーション(愛称:「サポステ」)では、働くことに悩みを抱えている15歳~39歳までの若者に対し、キャリア・コンサルタントなどによる専門的な相談、コミュニケーション訓練などによるステップアップ、協力企業への職場体験などにより、就労に向けた支援を行っています。
 サポステは、厚生労働省が認定した全国各所の団体が実施しており、平成26年度は全国160か所(和歌山県内3か所)に設置されています。

愛称
サポステ

サポートの流れ



個別相談

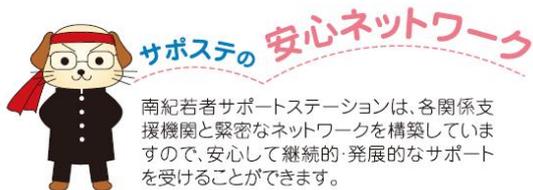
- キャリアカウンセラーによる **働くことに関する相談**
- 臨床心理士による **こころの相談**
- 訪問支援員による **訪問相談**

各種支援プログラム

- 職業体験・見学
- ビジスマナー講座
- パソコン講座・個別指導
- 就活セミナー
- コミュニケーション講座
- スキルアップ講座
- 保護者セミナー

好評！出張相談会

串本町・新宮市で
出張相談会を行っています。
詳しくはお問い合わせ
下さい。



サポステの安心ネットワーク

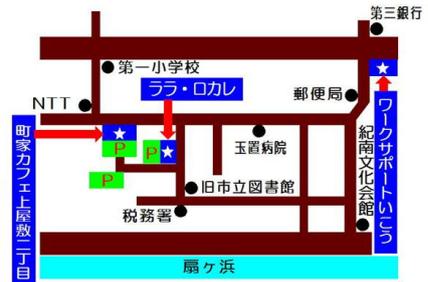
南紀若者サポートステーションは、各関係支援機関と緊密なネットワークを構築していますので、安心して継続的・発展的なサポートを受けることができます。

さあ!まずは相談してみませんか!
ご家族からのご相談も、もちろんお受け致します。

NPO法人 かたつむりの会

法人本部

住所 〒646-0043
和歌山県田辺市今福町119 中田ビル2F
ワークサポート・いこつ内
電話 0739-25-3888 FAX 0739-33-7210
メール npo.katatsumuri@pearl.ocn.ne.jp



各施設図

町家カフェ上屋敷二丁目

(障害者就労継続支援A型事業所)

就労の場所です。週20時間以上働ける人は
雇用保険にも加入しています



営業時間 9:00~14:30
(月曜定休日)

住所 〒646-0036
和歌山県田辺市上屋敷2-6-31

電話 0739-20-5595

メール npo.katatsumuri@pearl.ocn.ne.jp



ララロカレ RaRaLocale

(障害者就労継続支援A型事業所)

レトロな元公民館を
改装して生まれた
パスタとパンの
レストランです。

2階はライブや展示会
などのイベント会場
として利用できます。



営業時間 9:00~18:00
(火曜定休日)

住所 〒646-0036
和歌山県田辺市上屋敷2-6-7

電話 / FAX 0739-34-2146

メール rara-locale@crocus.ocn.ne.jp



ワークサポート・いこつ

(障害者就労継続支援B型事業所)

銀座通りにあるビルの1室です
街なかのおしゃれな空間で
作業をしています。
働くことの土台作りを
目指すと共に、少しずつ
工賃も得ていきます。



開所時間 月~金曜 9:30~16:00
(イベントの都合で変更する場合があります)

住所 〒646-0043
和歌山県田辺市今福町119

電話 / FAX 0739-25-3888 / 0739-33-7210

メール npo.katatsumuri@pearl.ocn.ne.jp

特定非営利法人 共生舎

私共 NPO 法人共生舎は社会福祉法の制度に依らずそれぞれの立場の者がその個性を認め生かし、お互いに助け合って生活していくという理念の下に活動しております。

主な活動

・助け合い

・地区住民間の交流
・都市部の人々との交流
・地域の高齢者の生活援助

・(季節毎の行事、イベント etc)
・(大学ゼミ、子ども会活動、田舎暮らし体験、小旅行 etc.)
・(畑起こし、庭の手入れ、草取り家の清掃 etc.)

・個性を生かす

・それぞれの人の個性を生かし助け合って生活する場の提供

・競争・経済至上主義によらない生活活動作りをめざす
(オアシス創り)

・自給自足をめざす

・休耕田の活用

・米、野菜作り活動

活動の場

・山あい拠点

田辺市(旧大塔村)五味 240-10 共生舎 古民家 定員 10 名

ただいま活動に共鳴していただける方を求めています

1. 正会員になる。(年会費 5,000 円)
2. 共生舎のPRをしていただける方
3. 上記行事などへのボランティアに参加していただける方
4. 財政的援助をしてくださる方(金額は問わず)

連絡先 NPO 法人共生舎 田辺市五味 240-10
(Tel) 0739-62-0400

田辺市「ひきこもり」検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 思春期・青年期にある者(以下「青少年」という。)にみられる「ひきこもり」の問題について、関係機関が相互に連携して一体となって取り組むことを目的として、田辺市「ひきこもり」検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(検討事項)

第2条 委員会は、前条に規定する目的を達成するため、次に掲げる事項について検討等を行う。

- (1) 「ひきこもり」の状態にある青少年についての支援活動に関すること。
- (2) 前号に規定する青少年に関する問題点等について検討すること。
- (3) 「ひきこもり」の予防活動に関すること。
- (4) 「ひきこもり」に関する研修や研究会に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、委員会の目的達成のために必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員42名以内で組織する。

- 2 委員は、学識経験者、民間支援団体、医療・保健・福祉・教育関係機関、市職員等の中から、市長が委嘱し、又は任命する。
- 3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の在任期間とする

(委員会)

第4条 委員会に委員長及び副委員長2名を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員会の委員の代表による小委員会を設置し、定期的に会議を開き、その結果は委員会へ報告する。
- 3 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の意見又は説明を聴くため、その者に委員会への出席又は文書の提出を求めることができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務局は、保健福祉部健康増進課に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、委員長が別に定める。

Ⅲ-5. 田辺市ひきこもり検討委員会 設置要綱

附 則

この要綱は、平成17年5月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 25 年4月1日から施行する。

| | 選 出 区 分 | 備 考 (選 出 団 体 ・ 役 職 名) |
|-------|----------------|--|
| 委員 長 | 1 福祉関係団体・機関 | 社会福祉法人やおき福祉会 |
| 副委員 長 | 2 民間支援団体 | NPO法人ハートツリー ひきこもり者社会参加支援センター ひなたの森 |
| 副委員 長 | 3 医療関係者・団体・機関 | 紀南こころの医療センター(臨床心理学博士) |
| 小 委 員 | 4 学識経験者 | |
| 小 委 員 | 5 民間支援団体 | NPO法人ハートツリー 若者サポートステーション With You南紀 |
| 小 委 員 | 6 福祉関係団体・機関 | 社会福祉法人ふたば福祉会 |
| 小 委 員 | 7 福祉関係団体・機関 | 田辺市社会福祉協議会 |
| 小 委 員 | 8 保健機関 | 田辺保健所(精神保健福祉相談員) |
| 小 委 員 | 9 医療関係者・団体・機関 | 臨床心理士会(臨床心理士) |
| 小 委 員 | 10 田辺市役所 | 教育委員会学校教育課 |
| 小 委 員 | 11 田辺市役所 | 教育委員会生涯学習課 |
| 小 委 員 | 12 田辺市役所 | やすらぎ対策課(障害福祉室) |
| 小 委 員 | 13 田辺市役所 | 健康増進課 |
| | 14 民間支援団体 | 共生舎 |
| | 15 青年会議所 | 白浜・田辺青年会議所 |
| | 16 民間支援団体 | NPO法人 かたつむりの会 |
| | 17 福祉関係団体・機関 | 紀南児童相談所 |
| | 18 医療関係者・団体・機関 | 精神科医師 |
| | 19 医療関係者・団体・機関 | 紀南こころの医療センター(精神科医師) |
| | 20 教育関係機関 | 田辺市教育研究所 |
| | 21 教育関係機関 | 田辺市養護教諭研究会 |
| | 22 教育関係機関 | 和歌山県教育センター学びの丘 |
| | 23 教育関係機関 | 紀南六高校代表 |
| | 24 教育関係機関 | 西牟婁養護教諭研究協議会高校ブロック代表 |
| | 25 教育関係機関 | 南紀高校 |
| | 26 学識経験者 | 龍神地区 |
| | 27 学識経験者 | 大塔地区 |
| | 28 学識経験者 | 中辺路地区 |
| | 29 学識経験者 | 本宮地区 |
| | 30 学識経験者 | 主任児童委員 |
| | 31 田辺市役所 | 保健福祉部長 |
| | 32 田辺市役所 | 子育て推進課 |
| | 33 田辺市役所 | 商工振興課 |